

基地内埋蔵文化財調査報告書10

令和元・3・4年度 基地内遺跡ほか発掘調査事業

一西普天間住宅地区返還地内一

中頭方西海道（喜友名・新城の宿道）の試掘範囲確認調査

2025年（令和7年）3月

沖縄県 宜野湾市教育委員会

基地内埋蔵文化財調査報告書10

令和元・3・4年度 基地内遺跡ほか発掘調査事業

—西普天間住宅地区返還地内—

中頭方西海道（喜友名・新城の宿道）の試掘範囲確認調査

2025年（令和7年）3月

沖縄県 宜野湾市教育委員会



巻頭図版 1 報告書所収調査地位置



巻頭図版 2 試掘坑① 礫敷き検出〔北東から〕



巻頭図版 3 TR04 礫敷きと図根点〔西から〕



巻頭図版 4 TR06・21 裸敷き遺構



巻頭図版 5 TR25 裸敷きと土留め 遺構断面



巻頭図版 6 TR26・27 礫敷きと土留め遺構断面



巻頭図版 7 TR27 礫敷き遺構検出状況



巻頭図版 8 TP09 裸敷き遺構（新城）



巻頭図版 9 TP10 裸敷き遺構（新城）

序

本報告書は、平成 27 年 4 月にキャンプ瑞慶覧より返還された西普天間住宅地区返還跡地内において、本市教育委員会が令和元年度、令和 3 年度、令和 4 年度に実施した予備調査の成果を取りまとめたものであります。

今回報告する調査の内容は、当該地区を凡そ南西～北東方向に横断する中頭方西海道（喜友名・新城の宿道）とこれに繋がる古道を確認するための試掘・確認調査となっております。本市教育委員会ではこれらの道を歴史の道と称し、本地区における重要遺跡の一つとして整備・活用についての計画を作成しているところであります。今回の調査は歴史の道を整備・活用するための基礎資料として歴史の道のルートを確認させること、道の構造を把握することなどを目的に実施しております。令和元年度の調査では小規模ながら道の路面に小さな石を敷き詰めている状況が確認されました。令和 3 年度には歴史の道の主道である喜友名・新城の宿道のルートを確認することができました。さらに、道を造るために地山や岩盤を削り、礫を充填して土留めとしていたことが数箇所確認され、大規模な造成工事がおこなわれていたことが明らかとなりました。

これらの調査成果により、当該地区の歴史の道について多くの情報を得ることができ、今後の整備・活用に活かすことができるものと考えております。

今回の調査成果が広く市民の歴史的教材や学術資料としてご活用いただければ幸いです。

末尾になりましたが、多大なご指導を賜りました文化庁文化財部、沖縄県教育庁文化財課、並びに貴重なご指導・ご助言を賜りました市文化財保護審議会の先生方、その他関係各位に対しまして厚く御礼申し上げます。また、円滑に業務が遂行されるようにご協力を頂きました宜野湾市軍用地等地主会をはじめ、沖縄防衛局並びに関係部署の皆様に対しまして心から感謝申し上げます。

2025（令和 7）年 3 月

沖縄県 宜野湾市教育委員会
教育長 仲 村 宗 男

例 言

1. 本報告書は、宜野湾市教育委員会が文化庁の補助（文化庁国庫補助）を受けて、令和元年度、令和3年度、令和4年度に実施した西普天間住宅地区返還跡地における予備調査（試掘・範囲確認調査）の成果を所収したものである。
2. 現地調査にあたっては、宜野湾市軍用地等地主会、沖縄防衛局返還対策課の協力を得た。
3. 本書に掲載した遺構図の座標軸は国土座標系（旧座標系）第XV座標系を使用し、その座標値は日本測地系である。なお、報告書抄録の緯度経度については、世界測地系である。
4. 本書に掲載した地図は、基本的に宜野湾市都市計画課発行の都市計画図（1：2500）を使用しており、令和2年度撮影の航空写真については、宜野湾市税務課から使用許可を得て掲載した。
また、他の情報図については、宜野湾市教育委員会が管理・運営しているGISデータを主に使用している。
5. 本書で使用している土色は、農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
6. 本書の執筆は、末吉飛鳥、仲村毅があたり、執筆分担は以下に記した。なお、本書の編集は末吉・仲村がおこない、DTP編集制作は翁長がおこなった。また、本書に掲載した出土遺物の写真撮影は、翁長がおこなった。

末吉飛鳥 …… 第I章、第II章、第IV章第2～4節

仲村 毅 …… 第II章、第III章、第IV章1節

7. 現地調査で得られた実測図・写真・画像デジタルデータ・地形測量図等の各種調査記録類および出土遺物はすべて宜野湾市教育委員会文化課で保管している。

目次

巻頭図版

序

例言

第Ⅰ章 位置と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	3
第3節 西普天間住宅地区の文化財	6
第Ⅱ章 事業概要	9
第1節 調査に至る経緯	9
第2節 調査体制	10
第Ⅲ章 歴史の道の概要	13
第1節 沖縄県内の歴史の道について	13
第2節 宜野湾市の歴史の道の概要	15
第3節 西普天間住宅地区における歴史の道	19
第Ⅳ章 調査成果	25
第1節 令和元年度の調査	25
第2節 令和3年度の調査	54
第3節 令和4年度の調査	106
第4節 総括	115
参考文献	125
報告書抄録	

巻頭図版

巻頭図版 1	報告書所収調査地位置	巻頭図版 5	TR25 礫敷きと土留め遺構断面
巻頭図版 2	試掘坑① 礫敷き検出〔北東から〕	巻頭図版 6	TR26・27 礫敷きと土留め遺構断面
巻頭図版 3	TR04 礫敷きと図根点〔西から〕	巻頭図版 7	TR27 礫敷き遺構検出状況
巻頭図版 4	TR06・21 礫敷き遺構		

挿図目次

第Ⅰ-1図	宜野湾市の位置	1	第Ⅳ-24図	TP03	74
第Ⅰ-2図	宜野湾市の地質図	2	第Ⅳ-25図	TP03	75
第Ⅰ-3図	宜野湾市の地形断面図	2	第Ⅳ-26図	TP07	78
第Ⅰ-4図	宜野湾市地形分布図	5	第Ⅳ-27図	TP07	79
第Ⅰ-5図	昭和20年 宜野湾市全体	5	第Ⅳ-28図	TP07	74
第Ⅰ-6図	西普天間住宅地区文化財分布図・文化財一覧表	6	第Ⅳ-29図	TP08	82
第Ⅰ-7図	字普天間周辺（令和2年撮影）	8	第Ⅳ-30図	TP08	83
第Ⅰ-8図	西普天間住宅地区及び周辺文化財分布図（昭和20年）	8	第Ⅳ-31図	TP09	86
第Ⅲ-1図	宜野湾市全体及び周辺の現況図におけるルート	17	第Ⅳ-32図	TP10	88
第Ⅲ-2図	戦前の西普天間住宅地区と中頭方西海道（昭和20年）	20	第Ⅳ-33図	TP11	90
第Ⅲ-3図	西普天間住宅地区内の歴史の道	21	第Ⅳ-34図	TP11	91
第Ⅲ-4図	西普天間住宅地区内の歴史の道（戦前）	22	第Ⅳ-35図	TP11 石敷き遺構	92
第Ⅲ-5図	令和元～4年度 試掘坑配置図	23	第Ⅳ-36図	TP12	94
第Ⅳ-1図	試掘坑①	26	第Ⅳ-37図	TP12	95
第Ⅳ-2図	試掘坑①	27	第Ⅳ-38図	TP12 石敷き遺構	96
第Ⅳ-3図	試掘坑②	29	第Ⅳ-39図	令和2～4年度調査位置図	106
第Ⅳ-4図	試掘坑②	30	第Ⅳ-40図	TR37	107
第Ⅳ-5図	TR04	32	第Ⅳ-41図	TR38	109
第Ⅳ-6図	TR05	34	第Ⅳ-42図	TR38	110
第Ⅳ-7図	TR05	36	第Ⅳ-43図	TR39	112
第Ⅳ-8図	TR11	38	第Ⅳ-44図	TR39	113
第Ⅳ-9図	TR12	40	第Ⅳ-45図	琉球国惣絵図（沖縄県立博物館・美術館所蔵）	115
第Ⅳ-10図	TR13	42	第Ⅳ-46図	琉球国図（沖縄県立図書館所蔵）	115
第Ⅳ-11図	TR15	44	第Ⅳ-47図	遺構模式図	117
第Ⅳ-12図	TR16	46	第Ⅳ-48図	令和2～5年度記録保存調査位置図	118
第Ⅳ-13図	TR17	48	第Ⅳ-49図	令和2年度調査区1 礫敷き検出（Aライン）平面図	119
第Ⅳ-14図	令和3年度調査位置図	54	第Ⅳ-50図	令和2年度調査区2 礫敷き検出（A・Cライン）平面図	120
第Ⅳ-15図	TR18 拡張部	55	第Ⅳ-51図	令和4年度調査区2 礫敷き検出（Bライン）平面図	121
第Ⅳ-16図	TR19	57	第Ⅳ-52図	令和4年度調査区3 礫敷き検出（Cライン）平面図	122
第Ⅳ-17図	TR19	58	第Ⅳ-53図	令和4年度調査区4 礫敷き検出（A・Bライン）平面図	123
第Ⅳ-18図	TR20	60	第Ⅳ-54図	令和5年度調査区4 礫敷き検出（A・Cライン）平面図	124
第Ⅳ-19図	TR21	62			
第Ⅳ-20図	TR22	64			
第Ⅳ-21図	TR25	66			
第Ⅳ-22図	TR26	69			
第Ⅳ-23図	TR27	72			

図版目次

図版Ⅱ-1	現地視察状況	12	図版Ⅳ-5	TR06	37
図版Ⅲ-1	宜野湾市の歴史の道	18	図版Ⅳ-6	TR11	39
図版Ⅳ-1	試掘坑①	28	図版Ⅳ-7	TR12	41
図版Ⅳ-2	試掘坑②	31	図版Ⅳ-8	TR13	43
図版Ⅳ-3	TR04	33	図版Ⅳ-9	TR15	45
図版Ⅳ-4	TR05	35	図版Ⅳ-10	TR16	47

図版IV - 11	TR17	49	図版IV - 23	TP03 出土遺物	61
図版IV - 12	TR18 拡張部	56	図版IV - 24	TP07	81
図版IV - 13	TR19	59	図版IV - 25	TP08	84
図版IV - 14	TR20	61	図版IV - 26	TP08	85
図版IV - 15	TR21	63	図版IV - 27	TP09	87
図版IV - 16	TR22	65	図版IV - 28	TP10	89
図版IV - 17	TR25	67	図版IV - 29	TP11 出土遺物	92
図版IV - 18	TR25	68	図版IV - 30	TP11	93
図版IV - 19	TR26	70	図版IV - 31	TP12	96
図版IV - 20	TR26	71	図版IV - 32	TP12	97
図版IV - 21	TR27	73	図版IV - 33	令和3年度 出土遺物	105
図版IV - 22	TP03	76			

挿表目次

第IV - 1表	令和元年度 試掘坑調査成果一覧-1	50	第IV - 7表	令和3年度 試掘坑調査成果一覧-3	100
第IV - 2表	令和元年度 試掘坑調査成果一覧-2	51	第IV - 8表	令和3年度 遺物集計表-1	101
第IV - 3表	令和元年度 遺物集計表-1	52	第IV - 9表	令和3年度 遺物集計表-2	102
第IV - 4表	令和元年度 遺物集計表-2	53	第IV - 10表	令和3年度 遺物集計表-3	103
第IV - 5表	令和3年度 試掘坑調査成果一覧-1	98	第IV - 11表	令和3年度 遺物集計表-4	104
第IV - 6表	令和3年度 試掘坑調査成果一覧-2	99			

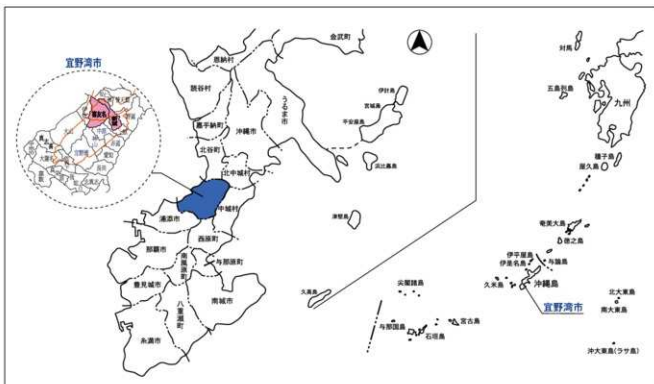
第I章 位置と環境

第1節 地理的環境

宜野湾市は沖縄本島中部の西海岸に位置する。北は北谷町、東は北中城村、中城村、南には西原町、浦添市と5市町村に接する。市域の面積は約19.8 km²で東西方向に約6.1km、南北方向に約5.3kmの長方形状となっている。市の北側にはキャンプ瑞慶覧、中央には普天間飛行場が占有し、市民の居住地はその周縁部にドーナツ状に歪に展開する。市域には、国道58号線、330号線のほか、沖縄自動車道北中城IC・西原ICへのアクセス道路として、県道北中城線や県道34号線等の主要幹線道路が縦横に展開し、中南部と北部地域を結ぶ交通の要衝となっている。

本市の地層は、泥岩や砂岩からなる新生代第三紀島尻層群を基盤とし、その上に琉球石灰岩が不整合に覆っている。西海岸沿いの低地には沖積層である砂層が堆積し、内陸部には琉球石灰岩で形成された海岸段丘が発達する。石灰岩台地上には島尻マージと呼ばれる赤色粘土質の土壌が広く分布し、市域の東側は島尻層群が風化してできたジャングル土壌が分布する。

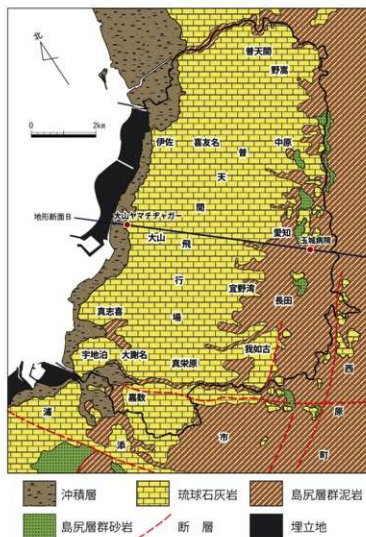
地形を見ると、海岸から内陸に向かって雛壇状の海岸段丘からなり、中段段丘と低位段丘がそれぞれ下位面、上位面に区分する4つの段丘面を有している。さらに河川や海岸沿いには周辺の土地よりも標高の低い低地があり、地下水面が浅く、湿地帯であるため、水田として利用されることが多い。市の北側、北谷町との境には普天間川、浦添市との境には比屋良川が流れ、段丘面を横断するように発達している。また、段丘面の境には比高の異なる段丘崖があり、琉球石灰岩から浸透した雨水が不透水性の島尻層で地下水となって発達し、石灰岩を浸食して多くの洞穴（鍾乳洞など）を形成している。これらの地下水は下位の段丘崖で湧水となって湧きだし、古来より人々の生活の中心として利用されてきた（註1）。



第I - 1図 宜野湾市の位置

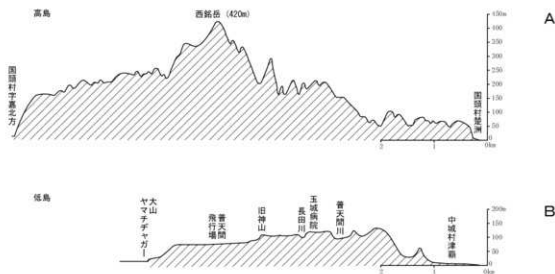
西普天間住宅地区は本市の北側、キャンプ瑞慶覧に接する県道 81 号線に面した中段段丘の縁辺部（標高 60 m 前後）から海岸低地（標高 10 m 前後）へ至る段丘状の平地、斜面地に位置する。地区の東側の大部分は戦後の基地建設に伴う大規模な造成工事が行われ、戦前までの地形はイシジャーの溪谷を除いてほぼ失われている。しかし、地区西側の喜友名、新城では、急峻な斜面地や湧水による湿地などのためか、あまり改変されずに戦前からの地形が良好に保存されている。特に斜面緑地の標高 14～16 m ラインには、不透水性の島尻層と石灰岩の不整合面があり、そこから地下水が湧きだして国指定文化財である喜友名泉をはじめとした多数の湧泉が分布する。戦前まで湧泉群の北側に広がる沖積低地には豊富な水量を活かした県下でも有数の水田地帯が広がっていた。

中頭方西海道は、浦添市から牧港橋を越えて本市に入ると、大謝名集落側を通して真志喜付近で国道 58 号に重なり、大山の一里塚付近で海岸側と分岐するが、内陸側のルートは国道に重なったまま伊佐付近まで続く。そして伊佐古集落に沿って東に迂回し、喜友名泉の前を通るように西普天間住宅地区に入る。その後はミーガー、パンサー、ヤマガーといった湧泉群に沿って緑地内を抜け、新城を



第 I - 2 図 宜野湾市の地質図

して真志喜付近で国道 58 号に重なり、大山の一里塚付近で海岸側と分岐するが、内陸側のルートは国道に重なったまま伊佐付近まで続く。そして伊佐古集落に沿って東に迂回し、喜友名泉の前を通るように西普天間住宅地区に入る。その後はミーガー、パンサー、ヤマガーといった湧泉群に沿って緑地内を抜け、新城を



第 I - 3 図 宜野湾市の地形断面図

北上して安仁屋古集落（キャンプ瑞慶覧内）を抜けて普天間川を渡り、北谷町側へ入るルートとなっている（註2）。この中頭方西海道のうち当該地区内に所在する範囲については、喜友名・新城の宿道の名称で周知されている。

第2節 歴史的環境

沖縄諸島に人類が住み着いたのは、現在から約35,000年前とされており、本市の大山洞穴からは放射性炭素年代測定により18,000年前と測定された20歳前後の男性の下顎骨が発見されている。このほかにも本市では、普天満宮洞穴遺跡（市指定名勝）からリュウキュウジカやムカシキョンなどの更新世に比定される化石動物が発見されているほか、近年では沖縄国際大学による調査で18,000～32,000年前の炉跡が発見されている。また、沖縄諸島における土器の起源についても、新たな発見が相次いでいる。特にうるま市の敷地洞穴遺跡では、これまで県内で最古とされてきた6,000～7,000年前（縄文時代早期～前期）よりも古い約8,500年前の土器が発見されている。

一方、貝塚時代早期の明確な遺構の発見例は少なく、堅穴住居などの生活址が増え始めるのは貝塚時代前期（縄文時代後期並行）からである。それまで、海岸砂丘後背地などの海辺に集落を構えていたが、貝塚時代前期～中期になると台地上に集落を形成するようになる。本市では、大山富盛原第二遺跡や喜友名貝塚、喜友名東原ヌバタキ遺跡、喜友名山川原第九遺跡などで堅穴建物跡が検出されている。貝塚時代後期（弥生時代～平安時代並行）になると、再び海岸砂丘上に集落を形成するようになる。真志喜安座間原第一・第二遺跡はこの時代の大規模な集落跡と墓地（埋葬遺構群）であり、堅穴住居跡のほか、平地住居跡（掘立柱建物跡）も見られ、両者が共存することが知られている（註3）。

また、それまでに比べて九州以北との交流が盛んになり、ゴホウラ・イモガイ等の南島産貝を求める人々との交易が始まる。これにより、九州以北では南島産の大型巻貝が輻輳に加工されて流通し、奄美・沖縄諸島では弥生土器や金属製品などの文物がもたらされた。その一方で弥生文化の特徴である灌漑水田はこれまでのところ確認されていない。西海岸地域の沖積低地に立地する新城下原第二遺跡からは、水田に貯えた水を外に逃がさないようにする盛土（畦畔）の痕跡が見つかり、この畦畔に沿うようにして多量の木杭が確認された。年代測定の結果からグスク時代初期頃の年代が得られている（註4）。このようにグスク時代（12～15世紀）に入ると、農耕を基礎とする社会が形成される。本市では、真志喜石川原一・第二遺跡や伊佐前原第一遺跡、普天間後原第二遺跡がグスク時代初期の遺跡として知られる。特に普天間後原第二遺跡では、キャンプ瑞慶覧内の調査の中で、当時の掘立柱建物跡が少なくとも109基検出され、当時の集落形態の一端を窺うことができた（註5）。キャンプ瑞慶覧と隣接する西普天間住宅地区内においても新城上殿遺跡や喜友名山川原第八遺跡、喜友名下原第一・第二遺跡などで当該時期の掘立柱建物跡などが多数確認されており、海岸に面した台地上縁辺に集落址が点在していることが判明している（註6）。市域におけるグスク時代の遺跡は、迫地や河川流域の谷底地形を控える平地・丘陵斜面・段丘縁等に立地しており、伝統的集落である近世の「村」の形態は、この時期に端緒が求められる。

15世紀に入ると、佐敷按司尚巴志が中山の王となって第一尚氏王統が誕生する。巴志はその後、山南・山北を滅ぼし、統一政権を樹立した。15世紀の終わりには尚円が実権を握り、第二尚氏王統が成立する。そして3代目の尚真の時に琉球王国は最盛期を迎える。尚真は中央集権化を推し進めて、各地の有力按司を首里に住まわせ、あわせて首里城や城下町、真珠道などを整備した。1609年島津氏の侵攻を受け、琉球は奄美諸島を割譲、中国貿易の利潤も抑えられることとなった。さらに、米・砂糖・布などに多額の貢租が課

せられることとなり、王府の財政は逼迫していった。このような社会情勢の中、羽地朝秀や蔡温らによって近世王府の政治・行政改革が行われることとなった。この時期に王府による土地利用の統制が行われ、碁盤型集落が発生したと考えられる。17世紀中頃には大規模な間切再編がおこなわれ、宜野湾間切を含めて8つの新間切が誕生した。宜野湾間切は、浦添間切から「かよく・宜湾・かミ山・加数・志々な・大志々な・内ミナ・喜友名・あら城・いさ」の10村、中城間切から「前ふてま・寺ふてま」の2村、北谷間切から「あきな」の1村を分割し、さらに「真志喜」村を新たに設けて1671年に新設された。このような間切の分割・再編は、薩摩の租税徴収および知行給賜への対処を目的としていたと考えられ、宜野湾間切については、尚弘善（尚質の第七王子）に与えるため、大規模間切である浦添間切の一部を割くことによって同間切両総地頭の勢力を削ぐことなどを目的とした可能性が指摘されている（註7）。

1737年～1750年（18世紀中頃）には首里王府によって本島及び周辺離島の細かい測量、いわゆる乾隆検地（元文検地）が行われ、西普天間住宅地地区ではこの乾隆検地に際して設置された印部土手石が見つかっている（註8）。

1854年、日本はペリー艦隊の前に開国を余儀なくされ、1867年には新政府が樹立し幕府は滅亡する。1872年、琉球国王の尚泰は琉球藩の藩主となり、1879年には琉球処分がなされ沖縄県となった。その結果、数世紀も続いた中国との関係が廃絶し、琉球王国は解体された。18世紀前半頃から各地にヤードゥイ（屋取）が形成されるようになるが、「琉球処分」後の社会の変化にともなう、首里・那覇で生活することができなくなった旧士族層が農村へ移り、各地におけるヤードゥイ（屋取）の人口は急増した。

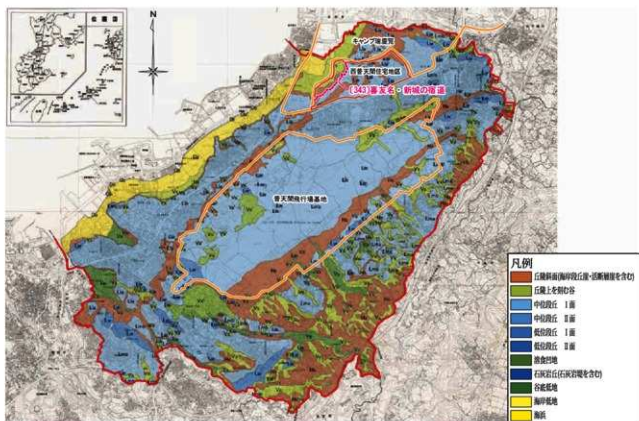
19世紀末から政府の主導によって沖縄県の地方制度改革が始まり、1899年から1903年にかけて土地整理が行われ、農民に土地の所有権が認められた。これにより村共同体としての屋敷造成がなくなったことから、碁盤型集落の展開は終焉を迎えた。1908年（明治41）には「沖縄県及島嶼町村制」が施行され、間切は町・村に、村は字に改められ、宜野湾間切は宜野湾村となった。

明治以降の宜野湾は、普天間に中頭郡役所や県立農事試験場などの官公庁の施設が置かれ、本島中南部の政治・経済の中心地として活気に満ちていた。各集落を結ぶ道の整備も行われ、琉球八社の一つ、普天満宮へ至る宜野湾並松街道やそこから分岐して伊佐方面へ向かうティラヌメー（普天間旧道跡）など、人と車（人力車・馬車）の往来が急増した。1922年（大正11）には那覇古波蔵駅と嘉手納駅を繋ぐ県営鉄道嘉手納線が敷設され、宜野湾村には大謝名駅・真志喜駅・大山駅の3駅が置かれた。また、大山駅には宜野湾村の各集落からさとうきびを運搬するためのトロッキミチが敷設された（註9）。

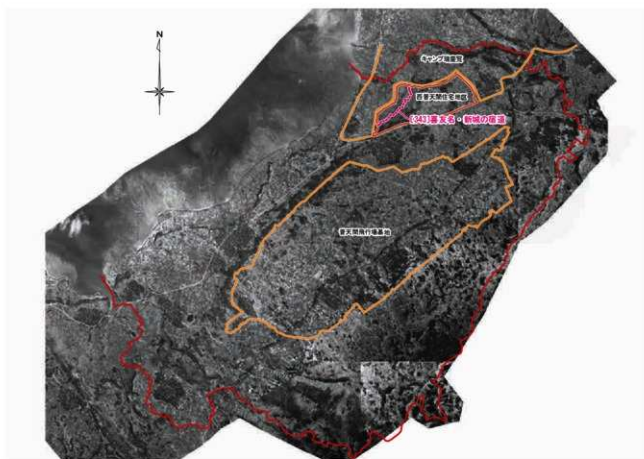
1939年（昭和14）には、志真志・長田・愛知・赤道・中原・上原・真栄原のヤードゥイ（屋取）が新たな字として設置され、1943年には真栄原から佐真下が分離した。

1945年沖縄戦（第二次世界大戦）において本市も壊滅的な被害を受けたが、幸うじて野嵩地域は消失を免れたことから、戦中戦後にかけて捕虜となった人々の収容所として利用された。その一方で市域の主要な場所は普天間飛行場やキャンプ瑞豊堂等の米軍基地として接収され、戦後、旧村への帰還が許された住民の中には自分たちの住んでいた土地に戻る事ができなかった者も多くいた。

戦後は普天間を中心に都市化が進展し、1955年（昭和30）には18,469人だった人口も1960年（昭和35）年3月では3万人を超え、1962（昭和37）年7月1日には市制が施行され、「宜野湾市」が誕生した。市制施行後もなお、普天間飛行場が本市の中央に位置し、市街地は基地周辺に歪なドーナツ状に展開している。那覇市の外延的な拡大に伴って市街地化が進み、沖縄国際大学、琉球大学が立地し、西海岸側には沖縄コンベンションセンターが整備されるなど県内に高次都市機能の一部を担う重要地域となっている。近年で



第 I - 4 図 宜野湾市地形分布図

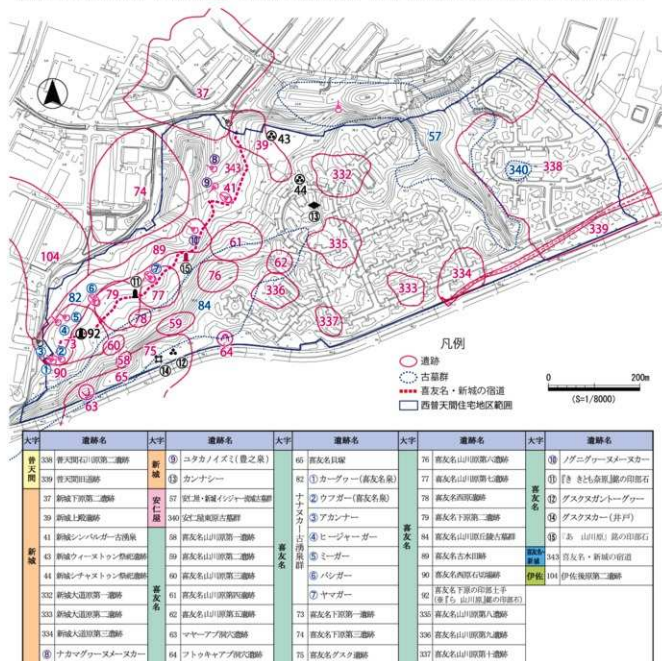


第 I - 5 図 昭和20年 宜野湾市全体

は、2016年（平成27）にキャンプ瑞慶覧の一部であった西普天間住宅地地区（約51ha）が返還され、琉球大学病院及び医学部移転などの跡地利用計画が進められており、2025年（令和7年）1月に琉球大学病院が開院された。

第3節 西普天間住宅地地区の文化財

市教育委員会では、当該地区の返還後の跡地利用を見据えて返還前から地区内の文化財の状況を把握するための予備調査をおこなってきた。これまでに実施された予備調査の結果、2003年12月現在において、埋蔵文化財が29箇所、古基群が3箇所、拝所が3箇所、湧泉・井戸が12箇所、その他文化財が4箇所の計51箇所の文化財が確認されている（※口伝・伝承によるものや消失または移設した文化財も含む）。これらの遺跡のほとんどが地区西側の斜面緑地に分布しており、市で唯一の防衛施設を持つ喜友名グスクや国指定文化財の「喜友名泉」などが所在する。特に喜友名から新城にかけて湧泉の発達が顕著で、標高14～16mラインに点在し、これら湧泉から北側に広がる低地一帯は、戦後始め頃まで水田として利用された。



第1-6図 西普天間住宅地地区文化財分布図・文化財一覧表



第1 - 8図 西普天間住宅地区及び周辺文化財分布図(昭和20年)

第Ⅱ章 事業概要

第1節 調査に至る経緯

1. キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）の返還と跡地利用計画

キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）（以下、「西普天間住宅地区」）は、平成8年12月に「沖縄に関する特別行動委員会」（SACO）の最終報告において返還が合意されたキャンプ瑞慶覧の一部であり、平成25年4月に日米両政府が共同発表をおこなった「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」の中で「必要な手続きの完了後に速やかに変換可能となる区域」とされ、平成27年3月31日に返還された。

当該地区の跡地利用に向けて「跡地利用基本計画」の検討や宜野湾市、宜野湾市軍用地等地主会、沖縄県、沖縄総合事務局、沖縄防衛局による「キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）の跡地利用協議会」が平成25年度から開催されるなど、返還後の跡地利用に関する様々な取り組みが協議された。沖縄防衛局は「沖縄県における駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する特別措置法」に基づいて、地権者への土地の引渡し前に土壌汚染調査や不発弾探査などの支障除去措置を実施することとなり、これに先立ち、当該地区に所在する埋蔵文化財の分布状況や範囲、性格等を把握することが急務となった。

2. 西普天間住宅地区の試掘調査

宜野湾市教育委員会（以下、「市教委」）では、上述した支障除去措置やその後の跡地利用計画における諸開発工事に対して埋蔵文化財の保護調整を円滑に進めるため、平成26年度から試掘調査を実施した。同年11月に沖縄県教育委員会（以下、「県教委」）へ試掘・確認調査の支援要請を行い（平成26年11月11日付、宜教文第254号）、当該地区のハウジングエリアを中心に平成27年7月から平成28年2月にかけて195箇所の試掘調査を実施し、6件の遺跡が新規で発見された。

平成28年度以降、市教委では当該地区の予備調査と跡地利用計画に基づく開発工事等に対して事前の記録保存調査を同時並行で進めなければいけない状況となった。そこで、当該地区西側の斜面緑地エリアについて、引き続き県教委及び県立埋蔵文化財センターに予備調査の協力を要請し、斜面緑地エリアの開発予定部分の予備調査を県が、喜友名グスク等の公園予定地や湧水等については市教委で分担して調査をおこなった。その後、平成29年度は地区北西端に位置する喜友名下原第三遺跡、平成30年度はミーガーや新城シンバルガー古湧泉、喜友名山山川原第四遺跡の試掘確認調査を実施した。

歴史の道に係る試掘調査は令和元年度からで、これまでの史料調査によって「公園上の里道」を現地に落とし込み、現況地形から遺構の残存する可能性の高い場所を選定して2箇所に試掘坑（試掘坑①②）を設定した。その結果、籾敷等の遺構が確認されたことにより、周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡名称：喜友名・新城の宿道）が新規で発見された。続いて中頭方西海道とそこから分岐する脇道（C、Dライン）に17箇所の試掘坑を設定して調査をおこなった。

3. 中頭方西海道の発見に至る経過

当該地区に所在する中頭方西海道は、平成27～29年度に実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の成果をもとに、平成30年度に「拠点返還地（西普天間住宅地区）に係る重要文化財指定・整備に関する調査検討業務報告書」を刊行した。平成30年度では、平成26～29年度までに実施した予備調査の成果と公園や昭和

20 年空中写真から、西普天間住宅地区内の歴史の道の道筋を検討がなされた。令和元年度から令和3年度には、前年度までに整理した基礎資料をもとに、公園の里道を中心に整備範囲を想定し、「歴史の道保存整備基本計画」を作成した。同計画に基づき令和元年度及び令和3年度にかけて、同計画の基礎資料とするべく範囲確認調査を実施した。

しかし、西普天間住宅地区では、跡地利用計画に係る開発工事が文化財調査と同時並行で進められており、開発範囲が既に決まっていた喜友名地区の調査を優先的に実施し、公園整備予定地内においては文化財の保護整備を図るための基礎資料を得る目的で調査を実施した。年度毎の調査内容は以下の通りである。

(1) 令和元年度

喜友名地区の開発予定範囲において、中頭方西海道が残存するか確認のための試掘調査を実施した。試掘坑の設定については、史料調査によって現地に落とし込まれた「公園上の里道」を横断するように2箇所の試掘坑を設定した。その後、『拠点返還地（西普天間住宅地区）に係る重要文化財指定・整備に関する調査検討業務報告書』をもとに、中頭方西海道とそこから分岐する脇道について17箇所の試掘坑を設定、計19箇所調査を実施した。

(2) 令和3年度

令和元年度の試掘調査、令和2年度の本発掘調査で西普天間住宅地区内に中頭方西海道が残存していることが判明し、地区全体の残存状況の確認及び保存整備範囲確認を目的とする調査を実施した。調査成果については、同年度中に重要文化財整備検討委員会の基礎資料とした。令和元年度と同様の設定方法で、喜友名地区に17箇所、新城地区に12箇所の合計29箇所の調査坑を設けた。

(3) 令和4年度

令和4年度は、中頭方西海道（喜友名・新城の宿道）から分岐してミーガーやバシガーといった湧水を結ぶ脇道（Dライン）に試掘坑を3箇所設定した。市の跡地利用計画では、脇道であるDラインに近接して補助幹線道路（喜友名線）が計画されており、これに基づいて前年度（令和3年度）に記録保存調査が実施されている。しかし、その調査では道に関連する遺構は確認されなかったため、想定よりも北側に道関連の遺構が残存している可能性が高いとして里道からやや北寄りの緩斜面部分を横断するように試掘坑を設定した。

第2節 調査体制

本報告の発掘調査は、令和元・3・4年度に現地での発掘作業、令和3～6年度にかけて資料整理・報告書作成を行った。実施体制は以下のとおりである。

事業主体者 沖縄県宜野湾市教育委員会

事業責任者 教育長

事業総括 教育部 教育部長

教育部 教育部長

知念 春美（令和元・3年度）

仲村 宗男（令和4～6年度）

比嘉 透（令和元年度）

嘉手納貴子（令和3～4年度）

崎間 賢（令和5～6年度）

事業事務	文化課	文化課長	教育部 教育次長	真喜志若子（令和3年度） 宮城 葉子（令和4年度） 真鳥かおり（令和5～6年度）
			文化課 文化課長	比嘉 洋（令和元年度） 津波古良幸（令和3年度） 浜里 吉彦（令和4～6年度）
			文化財保護係長	仲地 真俊（令和元年度） 比嘉 高志（令和3～5年度） 渡慶次園子（令和6年度）
	文化課	文化財保護係担当主査	文化財保護係主任主事	長濱 健起（令和元年度） 伊藤 圭（令和3～6年度） 仲村 毅（令和元・3～6年度）
			文化財保護係主事	金城 りお（令和元・3～5年度） 森永 稯英（令和4年度） 来間 千明（令和6年度）
			文化財保護係主事	来間 千明（令和5年度） 末吉 飛鳥（令和3～6年度）
	調査業務	文化課	文化財保護係長	仲地 真俊（令和元年度） 比嘉 高志（令和3～4年度）
			文化財保護係主任主事	仲村 毅（令和元年度） 金城 りお（令和3～4年度）
			文化財保護係主事	末吉 飛鳥（令和3～4年度） 上江洲由昇（令和元・3～4年度）
	資料整理業務	文化課	文化財保護係主任主事	謝花 良次（令和元年度） 野中 靖夫（令和3～4年度） 仲村 毅（令和元・3～6年度）
			文化財保護係主事	金城 りお（令和3～5年度） 末吉 飛鳥（令和3～6年度）
			会計年度任用職員	伊波 晴美（令和元・3～6年度） 翁長和佳子（令和元・3～6年度）

委託業務

令和元年度 発掘調査支援業務委託（株）イビソク

令和3年度 発掘調査支援業務委託（株）アーキジオ パシフィック支店

調査指導及び協力者（所属等は当時）

赤嶺政信（琉球大学、宜野湾市文化財保護審議会委員）、安和吉則（浦添市教育委員会）、池田榮史（琉球大学、國學院大学）、上地 博（沖縄県教育委員会）上原 静（沖縄考古学会会長）、大堀皓平（沖縄

県教育委員会)、恩河 尚(沖縄国際大学、宜野湾市文化財保護審議会委員)、片桐千亜妃(沖縄県教育委員会)、金城貴子(沖縄県教育委員会)、後藤雅彦(琉球大学、宜野湾市文化財保護審議会委員)、米須菜摘美(北谷町教育委員会)、佐伯信之(浦添市教育委員会)、崎浜 靖(沖縄国際大学、宜野湾市文化財保護審議会副会長)、芝康次郎(文化庁)、新里貴之(沖縄国際大学)、菅原広史(浦添市教育委員会)、高江洲敦子(沖縄国際大学、宜野湾市文化財保護審議会委員)、玉城 綾(沖縄県教育委員会)、東門研治(北谷町教育委員会)、仲座久宜(沖縄県教育委員会)、仲宗根久里子(浦添市教育委員会)、波平エリ子(沖縄女子短期大学、宜野湾市文化財保護審議会委員)、仁王浩司(浦添市教育委員会)、濱口寿夫(中城村護佐丸歴史資料図書館館長、宜野湾市文化財保護審議会委員)、橋本眞紀夫(バリノ・サーヴェイ(株)顧問、(公財)日本文化財保護協会副理事長)、比嘉悦子(沖縄県文化財保護審議会委員、宜野湾市文化財保護審議会会長)、松原哲志(北谷町教育委員会)、宮城弘樹(沖縄国際大学、宜野湾市文化財保護審議会委員)、宮里信勇(浦添市教育委員会)、山城安生(北谷町教育委員会)



図版Ⅱ - 1 現地視察状況

第III章 歴史の道の概要

第1節 沖縄県内の歴史の道について

1. 歴史の道について

「歴史の道」は、文化庁が国の歴史や文化を理解する上で重要な古道として位置付けたもので、全国の重要な古道の保護・整備および活用を支援するため、1978年より熊野参詣道（和歌山県）などを対象に「歴史の道事業」が開始された。また、歴史の道事業の一環として、平成8年に全国各地の最もすぐれた「歴史の道」78か所を「歴史の道百選」として選定し、さらに、令和元年、新たに36件の道を選定し（既選定への追加選定19件）、「歴史の道百選」は114件が登録されている。そして、沖縄県からは国頭・中頭方西海道（那覇市・浦添市・恩納村）、中城ハタ道（中城村）が歴史の道百選に登録されている（註1）。

本県でも歴史の道の調査が昭和58年度から文化庁の補助を受けて行われ、『沖縄県歴史の道調査報告書』において報告されている（註2）。この調査は「薩摩藩調整図」（18世紀中頃）をベースに現地調査（調査対象の路線とこれに沿う地域に残る関連遺跡及びその他の文化財の現地確認と調査）と文獻調査（調査対象道に関する古文書・古記録・碑文等の文獻及び調査道に沿う地域に残る関連遺跡、その他文化財に関する文獻の収集・研究）が実施された。

上記報告書によれば、「歴史の道」は琉球を統一した尚巴志により、15世紀初めに里制・駅制を設けて、公道が整備されたと考えられている。そして、近世以前の道として『正保三年琉球国絵図帳（写）』（1646年）より、首里城を起点に沖縄本島西側を北上する国頭・中頭方西海道、東側を北上する国頭・中頭方東海道および南下する島尻方西海道、島尻方東海道、そして泊、那覇の港を経由して各離島、両先島への海路の5つの道があり、これらの道は行政上必要な道で、首里城より各間切番所への道（公道）であったとされている。さらに、各地に残された石碑文や近年の発掘調査の成果によって、第二尚氏時代にはより一層の公道整備がなされたことが確認されている。

2. 他市町村における歴史の道について

県内での歴史の道の調査を受けて、各市町村でも地域の歴史の道についての関心が高まり、その調査が行われ、歴史の道と周辺文化財を保護整備し、活用されている。また、近年の開発等に伴う発掘調査において、種々の調査報告がなされているが、本報告書では歴史の道百選に選ばれた市町村の報告内容を取り上げることとする。

浦添市では、平成7年度より13年度まで文化庁と沖縄県の補助を受けて「歴史の道」整備事業が実施され、発掘調査による遺構の確認を経て、安波茶橋（北橋）や当山の石畳道の修復工事が行われた。また、平成14年度から18年度においては、内閣府の「世界遺産周辺整備事業」により、世界遺産「首里城跡」と浦添を結ぶ歴史の道「中頭方西海道」のうち、安波茶橋（南橋）及び石畳道の復元整備と周辺環境整備が実施され、平成17年10月7日に、安波茶橋一帯が「中頭方西海道」として市の史跡に指定された（註3）。整備事業に伴い実施された発掘調査によると「石畳道はほぼ琉球石灰岩を用いた幅3.1メートルの規模」であり、南北2基の石造アーチ橋である安波茶橋については、「北橋は単芯の円弧で3個の幅の長い琉球石灰岩を連結する構造であり、18～19世紀頃に改修された痕跡が残る」こと、「南橋は沖縄戦で破壊されたが、単芯の円弧で幅の狭い7個の琉球石灰岩を連結した、橋中央が駝背状に盛り上がる構造であることが判明し、

復元整備されている」（註4）。

上記の整備事業完了後、「中頭方西海道」と普天満参詣道の一部である「当山の石畳道」について、「琉球王府が幹線道路として整備した街道であり、現在も石畳道や橋梁遺構等が良好に残存し、我が国の交通・土木の歴史を知る上で貴重」（註4）であるとして平成24年9月19日付けで国指定史跡「中頭方西海道及び普天満参詣道」に指定された。

中城村では、平成14年度から平成27年にかけて歴史の道整備事業が実施され、発掘調査の結果、15世紀頃の近世の二時期の石敷きを確認し、新垣地区において約330m分の道が良好に残っていることが判明した。これらは琉球における交通・土木の歴史を理解する上で重要として、平成27年3月に「中城ハタ道」として国の史跡に指定された。さらに令和3年3月26日付けで、道の一部と沿道の関連文化財であるペリーの旗立岩が追加指定された。

ハタ道は、首里を起点として西原間切から中城間切を通り、勝連間切に至る琉球王府時代の街道であり、中城城の主要部が築かれた14世紀後半までに整備されたものと考えられている。15世紀後半以降は中頭方東海道として番所間を結ぶ宿道として機能した（註5）。1671年に宜野湾間切が新設されると宿道（中頭方東海道）としての機能が西原間切番所から宜野湾間切番所、そして中城間切番所へと至る通称バンジュ道に変更されることとなったが、その後も地域住民の生活道として利用され続けた（註6）。

恩納村では、昭和63年度から平成6年度にかけて歴史の道保存整備事業（文化庁補助）として宿道と周辺地域の文化財を対象に現況調査や整備工事等が行われた。恩納村を通る宿道は国頭方西海道の一部であり、「読谷の喜名（番所）から恩納間切を経て、国頭地方へ向かう道で、道幅約2.4m（約8尺）でその両側に松並木が植栽されていたという」（註7）。恩納村の「国頭方西海道」は、道だけでなく、沿道の遺跡も良好に残っていることなどから、「我が国の交通の歴史を考える上で重要であり、石畳道、御待毛、真栄田・仲泊の一里塚、石缸など整備事業が終了した部分を含めた約1kmを史跡として指定」（註8）された（平成16年9月30日付けで指定。平成21年2月12日追加指定）。

本市（宜野湾市）では、平成27年4月にキャンプ瑞慶覧から返還された西普天間住宅地区内において、中頭方西海道の山手側の道と思われる道筋が、同地区内の喜友名～新城の斜面緑地側を通るルートであることが古地図（絵図）や地籍図等の資料調査及び表面踏査や試掘調査等から確認された。令和2年度～令和5年度にかけて実施された支障除去措置に伴う記録保存調査においても中頭方西海道の一部と思われる礎礎と土留め遺構が確認され、同時期に実施している試掘調査の結果とともに道の構造や造成等についての詳細な情報を得ることができた。また、地区内の歴史の道については、令和元年度から令和3年度にかけて、有識者との現地踏査や意見交換を実施し、跡地利用計画における関係部署との調整も行ないながら、歴史の道を軸とした重要文化財保存整備基本計画を作成・報告書として取りまとめている。

＜参考文献＞

註1：文化庁「文化庁選定「歴史の道百選」より

註2「沖縄県歴史の道調査報告書Ⅱ-国頭・中頭方西海道（Ⅰ）・弁ヶ嶽参詣道-」1985年 沖縄県教育委員会文化課

註3「史跡中頭方西海道及び普天満参詣道保存活用整備計画書」令和3（2021）年

註4：文化庁「国指定文化財等データベース「中頭方西海道及び普天満参詣道」詳細解説より

註5：文化庁「国指定文化財等データベース「中城ハタ道」詳細解説より

註6『ハタタ道 - 歴史の道整備事業に伴う発掘調査報告 - 』2016年

註7『歴史の道 国頭方西海道保存整備事業報告書』平成7年

註8：文化庁 国指定文化財等データベース「国頭方西海道」詳細解説より

第2節 宜野湾市の歴史の道の概要

1. はじめに

本市には琉球王府によって整備された中頭方西海道、普天満参詣道（宜野湾並松街道）、番所道、クンジャンアブシの4本の「歴史の道」が確認されている。これらは、琉球国惣絵図（1737年～1750年）等の古地図にも記載されているとおり、王府（首里城）を起点に各間切（地域）の拠点である間切番所を繋ぐ宿道（公道）として重要な交通遺跡である。各道の詳細については以下に記す。

（1）中頭方西海道

浦添市の牧港方面から北上する道筋で、琉球王府からの諸令達や地方からの貢租を運ぶために各間切の番所を繋いだ琉球王朝時代に整備された宿道である。

市内のルートとしては、浦添市にある牧港橋を越えて宇地泊の現国道58号（宇地泊の旧集落南端）を通り、大謝名北側のジャナマガーから県道34号線を西原方面へ進む。大謝名クムイガーを過ぎたあたりで東側へ左折し、市街地を通る里道へ至る。道沿いには大謝名ウシアミシガーがある。大謝名ウシアミシガーは、田畑を耕す牛馬を洗うために使用された生活に欠かせない重要な湧泉であり、現在も地域の子供達が自然と触れ合う場所として親しまれている。ルートはそのまま市街地内の里道を北上し、再び国道へと合流する。真志喜から大山の区間はほぼ国道58号上に位置するため、現在では中頭方西海道としての面影は見られない。さらに大山から伊佐へ入るとキャンプ瑞慶覧が所在する。本来のルートは伊佐村（伊佐古集落）の西側から北側に沿って内陸側に迂回し、西普天間住宅地区内にある喜友名泉の前から斜面地をとり、新城上殿遺跡（グスク時代の集落跡）の側から同地区を抜けて再びキャンプ瑞慶覧に入り、安仁屋村へ向かう。ちなみに安仁屋村を抜けると普天間川を渡って北上し、北谷グスク麓の傳道村（伝道村）に至る。

琉球国惣絵図（1737年～1750年）に図示されている中頭方西海道は、伊佐村の西側から北端に沿って内陸側（西普天間側）に向かうルートを示している。これは普天間川を含む伊佐浜の一角が北谷タープクワと呼ばれる水田地帯（湿地帯）となっており、これを迂回するために山手側にルートが整備されたと想定されている。また、琉球国惣絵図には大山の一里塚付近で中頭方西海道から分岐して西側海岸を通る古道がある。この古道を本市では「クンジャンアブシ」と呼称し、大山小学校付近で分岐したようである。ただし、海岸側の道は平坦であるものの、大雨の時は川が氾濫し、通ることが困難であったといわれている。これに関して、1820年に建立された伊佐浜「新道佐阿天橋碑」には中頭方西海道について、山手側（内陸側）の道が険しいため、琉球王府によって海側の平坦な道を通れるように普天間川（別称：サーラ川）に佐阿天橋を架けたとする記述（※補1）があり、山手側の難渋な道から海岸側の平坦な道へ「中頭方西海道」を移動する大幅な改修工事が行われたと考えられている（註1）。

沖縄県刊行の『歴史の道調査報告書』（註2）でも内陸側が正路の古い道筋とされており、西普天間住宅地区を通る道筋はこの山手側（内陸側）の古い（1820年以前）正路であったと想定される。今回報告する内容はこの道筋における遺構の有無とルートの確認のために実施した調査成果となっている。

(2) 普天満参詣道

普天満参詣道は、浦添間切仲間村の御待毛（ウマチモ）から当山の石畳道を通り、嘉数村から宜野湾村、神山村、新城村を経て普天満宮へ至る道で、普天満街道とも呼ばれる。この街道は元々集落間を結ぶ生活道としていたものを、1644（順治元年）年以降、国王の普天満参詣が年ごとの王府の公事になったこと、及び1671年に宜野湾間切が新設されたことにより、参詣道として整備されたと考えられている。この道にはかつて、尚貞王の世子尚純（1660～1706）が普天満から浦添までの間に松を植え付けさせたとされており、1932（昭和7）年に「宜野湾街道松並木」として国の天然記念物に指定されていた。しかし、1945（昭和20）年以降、戦争をはじめ、都市開発や松くい虫等の被害によりすべての松が消失した（註1）。また、道筋の大部分が普天満飛行場内を通るため、現在は道の残存状況を確認することが困難である。さらに、野嵩ゲート付近から普天満宮までの道筋も国道330号及び商店街の敷地となっており、遺構は消失しているものと思われる。ただし、普天満宮境内には石畳道が現存していることが判明しており、参詣の目的地である普天満宮本殿は拝殿の後背に位置する普天満宮洞穴内に祀られており現在でも多くの参拝者が訪れる。

なお、普天満参詣道は普天満宮の正面で境内に接して東西にのびる道と丁字型に交わり、西側の伊佐方面へ向かう道は普天満旧道跡として西普天満住宅地区およびキャンプ瑞慶覧内で緊急発掘調査が行われている（※補2）。その一部は現在、街区公園内に現地保存（埋土）され、将来的な活用方法等について検討されている。

(3) 番所道

番所道は宜野湾番所と中城番所（中城城跡）を結ぶ番所道（バンジュ道）として首里王府によって整備された宿道である。琉球国惣絵図（1737年～1750年）を見ると新城村を越えた辺りで普天満宮に向かう普天満参詣道から野嵩村方向に分岐しており、野嵩村のナカミチを抜けて中城間切へ続く。現在、野嵩集落内は幅4m程度のアスファルト舗装の道路となっているが、集落を抜けた東側急斜面には市指定史跡「野嵩スディバナビラ石畳道」がある（註1）。この石畳道は高低差30mを超える斜面地に造られており、幅員が約3.0m、全長は約145mを測る。伝承としては、護佐丸・阿麻和利の乱（1458年）の際に、中城城から逃げてきた護佐丸の妻（あるいは三男盛親を抱いた乳母）がこの坂で阿麻和利の軍勢に追いつかれ、放たれた矢によって袖が引きちぎれたことから「袖離坂（スディバナビラ）」と呼ばれるようになったといわれている。また、1881（明治14）年に沖縄県令の上杉茂憲が、同年11月に宜野湾番所（宜野湾村）から中城番所（中城城跡）へ移動する際に「野嵩ノ坂」を通ったことが『上杉県令巡回日誌』（註3）に記されている。近年の発掘調査によって、県道によって途切れていた西側（集落側）部分にも石畳が非常に良好な状態で残っていることが明らかとなった。

(4) クンジャンアブシ

クンジャンアブシは、中頭方西海道から大山（謝名具志川村）付近で海岸側へ分岐する道筋で、分岐点から大山のウーシヌハナと呼ばれる崖状地形の縁を下り、地形の先端部から田芋畑の畦道を北東に進み宜野湾バイパスと国道58号の合流部付近で再び国道に重なり、宜野湾と北谷の境界近くに架かる佐阿天橋へのびる。地域では国頭への畦道という意味で「クンジャンアブシ」と呼ばれている。戦前はこの畦道の両端から刈り取った稲束を置いて穂先が重ならないほどの幅員があり、1間（約1.8m）程あったといわれている。現在は40～50cm程の幅員に変わり、道筋も大半は確認できなくなっている（註1）。



中頭方西海道 (西普天間 Aライン現況)



中頭方西海道 (R4 調査線敷標出)



普天満宮 境内



普天満宮 境内の石畳道



野嵩スディバナヒラ石畳道 (範囲確認調査)



野嵩スディバナヒラ石畳道 (全景)



クンジャンアブシ(ウーシヌハナの先端)



クンジャンアブシ (伊佐方面)

図版Ⅲ-1 宜野湾市の歴史の道

〈参考資料〉

註1：『令和3年度 西普天間住宅地区重要文化財（歴史の道〔全体〕他）保存整備基本計画作成業務 報告書』

令和4年3月

註2：『沖縄県歴史の道調査報告書Ⅱ - 国頭・中頭方西海道（Ⅰ）・弁ヶ嶺参詣道 - 』1985年 沖縄県教育委員会 文化課

註3：『上杉県令巡回日誌』1959年

補1：碑文大意「（前略）ここより東側にもう1条の道があり、都に行く正路であるが、道が険しくて容易でない。この道は平坦なので、人は皆正路を通らずにこの道を通るのである。しかしながら、平日はこの川を歩いて渡っても、大雨の時は川が氾濫し、とても渡れない。しかし、現在は政事が行き届いているので、民のためなら一つとして手がらないものはない。それで、ここにこの橋を建設したのである（後略）」

補2：キャンプ瑞慶覧内の調査は平成21年に実施され、普天間古集落遺跡内における道遺構（SF01）として報告されている。
西普天間住宅地区では平成27年に試掘・確認調査が行われ、「普天間旧道跡」として周知された。平成29年度に沖縄防衛局による支障除去措置に伴う緊急発掘掘削が実施され、200m近くの距離で遺構が確認された。

第3節 西普天間住宅地区における歴史の道

1. 中頭方西海道（喜友名・新城の宿道）と脇道（周辺古道）

西普天間住宅地区には中頭方西海道の山手側のルートがあり、この道については喜友名・新城の宿道（周知の埋蔵文化財包蔵地）として周知している。さらに中頭方西海道を中心にそこから分岐して喜友名集落や喜友名グスク遺跡及び各湧水を結ぶ脇道が通る。これらの道は戦前まで実際に地域の人々が使用していた道で、昭和20年に米軍が撮影した航空写真や地籍図に里道として記録されている。

当該地区におけるこれらの道の遺構について、返還後の支障除去措置を進めている沖縄防衛局や跡地利用計画を含む開発工事を担当する各部署との保存・整備等の調整を容易にするため、便宜的に中頭方西海道（喜友名・新城の宿道）をAライン、そこから分岐する脇道をそれぞれB、C、Dラインとした。ヤマガー手前から喜友名グスク遺跡へ至る道をCライン、喜友名泉とヤマガーの中間あたりから分岐して喜友名グスク方面（南側）へ行き、途中でCラインと接続する道をBラインとし、喜友名泉を過ぎたあたりからミーガー、バシガーに沿って進むルートをDラインとして呼称している（第III-3図）。

2. 各年度における試掘調査

令和元年度は、主に喜友名側の開発予定地を通るAライン、Cライン、Dラインの調査をおこなった。目的は道に関連する遺構の有無とルートの確認であり、地籍図のルート（里道）を基準にしながら現地の状況を考慮しつつ、想定されるルート上に19箇所の試掘坑を配置した。

令和3年度は、西普天間住宅地区全体のルート及び遺構の残存状況を確認し、今後の保存・整備・活用に繋げる目的で調査をおこなった。試掘坑の設定は令和元年度と同様に地籍図のルートを横断するように設定し、喜友名側に23か所、新城側に12か所の合計35か所の調査を行った。

令和4年度は、Dラインに試掘坑を3か所設定した。Dラインについては、A～Cラインで見られた礫敷遺構が確認できていないため、その有無を確認するための追加調査である（※土留めは令和元年度のTR16で確認されている）。なお、同年度に実施された記録保存調査において、AラインとCラインを面的に検出することができ、道幅や構造など試掘調査からの推察を裏付ける詳細な情報を得ることができた。

3. ルート（A～D）別の調査概要

（1）Aラインについて

Aラインは本地区における主要道路で、中頭方西海道（山手側の古い道筋の一部で、遺跡名は喜友名・新城の宿道である。地区内の道のりは約750mで、喜友名泉の前面（北側）から北東に進み、ヤマガーを過ぎてやや下りながら北側に折れて新城方面へ向かう。新城シンバルガー古湧泉、ノグニグーヌメヌカーの横を通り、新城上殿遺跡及びハンタモーへ至る。Aラインは現況地形で土手の縁辺を通るルートとなっていることが判明した。調査では土手の平坦あるいは斜面部で礫敷や土留め等の遺構が確認されている。

（2）Cラインについて

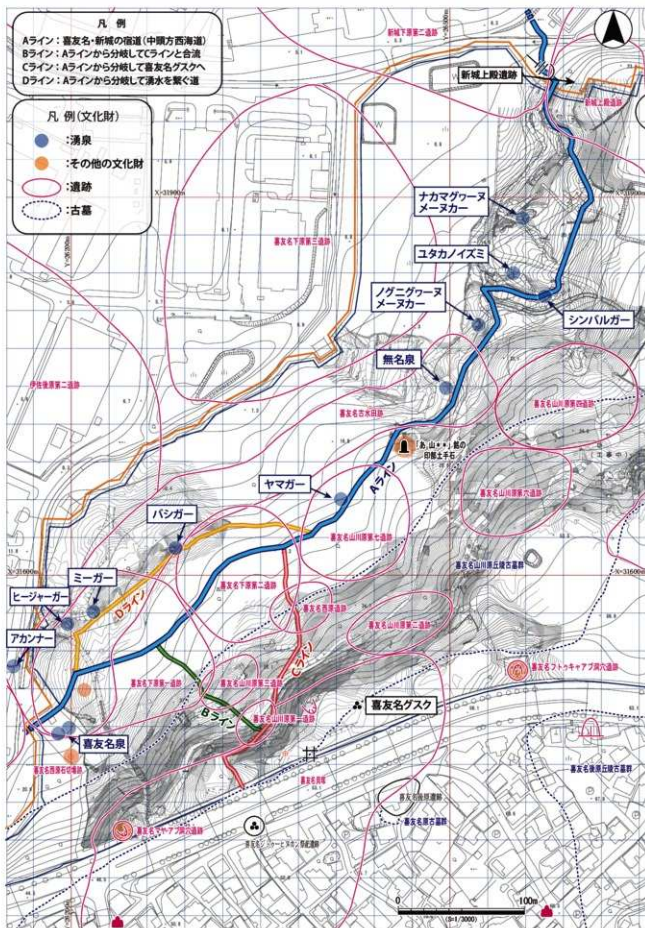
Cラインは、Aラインから分岐して喜友名グスク遺跡へ向かうルートである。道のりは約230mで、地域では「グスクンダ」と呼称されている。試掘調査では、現況地形で土手になる部分から礫層が検出され、道を構築するために大規模な造成が行われたことが確認された。令和2年度に実施された記録保存調査においてAラインと交差する場所が確認され、喜友名グスクへ至る道筋の様子が明らかとなっている。

（3）Dラインについて

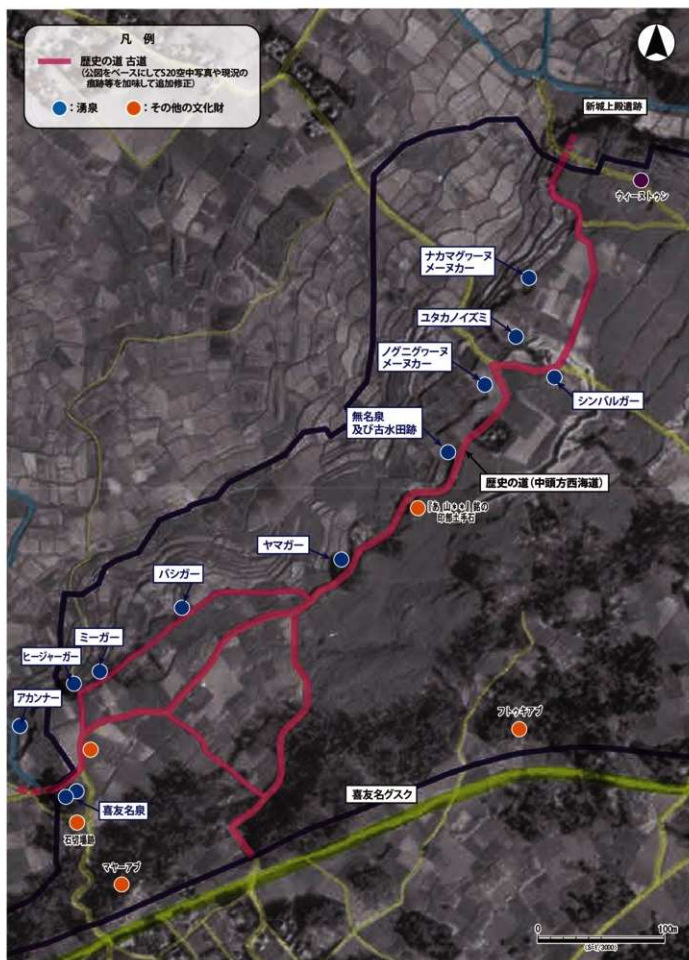
DラインもAラインから分岐する脇道で、道のりは約250mである。喜友名グスクから北側へ向かいミーガーマーチ（戦前まで所在していたが現在消失）から東に折れてバシガーへ向かう。地籍上では確認できないが、バシガーからヤマガーへ続いていた可能性がある。試掘調査では土手の斜面部において礫を内包する土留め遺構が確認されているが想定される路面部分からは明確に礫敷と言える遺構は確認されていない。ちなみに令和3年度にDラインを含む範囲の記録保存調査が実施されたが、道に関連する遺構は確認できなかった。現状、Dラインについては最初から土道であった可能性も考えられる。



第Ⅲ-2図 戦前の西普天間住宅地区と中頭方西海道（昭和20年）



第Ⅲ－3 図 西普天間住宅地区内の歴史の道



第Ⅲ－4図 西普天間住宅地区内の歴史の道(昭和20年)

A3 折込 (表)

A3折込(裏)白

第IV章 調査成果

第1節 令和元年度の調査

1. はじめに

これまで西普天間住宅地区内に琉球王朝時代の宿道である中頭方西海道の道筋があることが想定されていたが、具体的な道の遺構などは現地踏査でも確認されていなかった。そのため、当該地区で開発計画が進んでいることを踏まえ、事前に埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査をおこなうこととなった。令和元年度は、跡地利用計画において道路や住宅が予定されている喜友名地区の試掘調査を実施した。特に中頭方西海道であるAラインは地籍図と航空写真の比較でも道筋にズレが大きく、現地でも確認することができない状況であった。そこで、西普天間重要文化財整備事業の中で現地に戦前の里道（地籍図）のルートを確認し込む作業が行われていたことから、これを利用して里道を横断するように試掘坑（TR）を設定した（第III - 5図）。

また、各試掘坑の層序については、現地では個別に分層・注記をおこなっていたが、本報告を取りまとめるにあたり、令和4年以降に沖縄県と宜野湾市で使用している共通の基本層序（統一層序）に振り直した。基本層序の見解は下記のとおりである。なお、下記の基本層序は次節以降にも適用する。

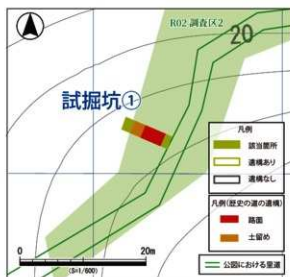
- I 層：基地の造成層および基地造成後の堆積層。表層には腐食土壌が堆積する。本層内には近代以降の遺物が多くみられる。
- II 層：近代～現代（戦前～基地接収後）の堆積層。上層は植林地帯の腐植土や芝生（基地内の場合など）。下層が戦前の耕作土。西普天間住宅地区では主に基地造成層以下は戦前の耕作土が堆積する。灰褐色砂質シルトで、基質の均質土は高い。炭化物、焼土粒を僅かに含む。
- III 層：近世相当の耕作土を含む堆積層。褐色～灰褐色の砂質シルトで、上位層に比してやや粘質が強い。炭化物や焼土粒等の混在物も多くなり、植栽痕等も認められる。
- IV 層：グスク時代相当の耕作土を含む堆積層。暗灰色～黒灰色の砂質シルト～シルトで腐食が多い。炭化物粒、焼土粒、マンガン班等の集中がみられ、混在物も多い。
- V 層：古代～グスク時代初期相当の耕作土を含む堆積層。灰黄褐色～にぶい黄褐色のシルト～粘質シルトで、全体的に腐食が多く、焼土粒も多く含まれ、根痕が著しく多い。
- VI 層：縄文時代後～晩期の堆積層。黄褐色を呈する粘質シルト層。炭化物や鉄錆のように赤く変色し硬質化したマンガン粒を含む。縄文時代後期～晩期前後に谷地へ流れ込んで堆積した土と推測される。
- VII 層：マージ。明赤褐色～明黄褐色あるいはにぶい黄褐色を呈するシルト層。場所によっては石灰質砂粒を多く含む場所（風化岩）もある。VIII層に接する部分は暗褐色で粘質が強い。
- VIII 層：琉球石灰岩の基盤層。灰白色を呈する。
- IX 層：島尻層群の泥岩風化層。灰オリーブ色。塊状やブロック状に剥離する。
- X 層：島尻層群を構成する泥岩。灰色を呈する。

2. 試掘調査の成果

令和元年度に実施した歴史の道に関連する試掘調査は、Aラインで11箇所、Cラインで3箇所、Dラインで5箇所の計19箇所を設定して調査をおこなった。そのうち、遺構が検出された試掘坑は11箇所である。遺構が検出された試掘坑については下記に詳細を記す。そのほかの試掘調査の成果については一覧表に掲載した（第IV-1・2表）。

（1）試掘坑①（Aライン）

ヤマガーから北東側約50mの地点に位置する。現況地形は東側から西側へ段々状の地形を有し、東側の小丘陵に沿って人為的に造られたように見えた。試掘坑（トレンチ）はこの段々状の地形を切るように2m×8mで設定した。調査の結果、東側は赤土と岩盤が露出し、段の平坦面では地表面から10cm程掘り下げた面で5～10cm程度の細かい礫が敷き詰められていることが判明した。また、トレンチ西側は赤土のみでなくクチャ層まで削り、20cm大の礫と茶褐色の埋土で土留め及び盛土造成していることが確認され、大規模な造成工事が行われていたことが明らかとなった。礫とともに沖縄産施釉陶器等の遺物が出土していることから構築年代は近世以降と思われる。



試掘坑① 概観

第IV-1図 試掘坑①

0000-0000-0000-0000



色調は暗褐色でしまりやや弱い。溝状の凹みになっていた可能性がある。

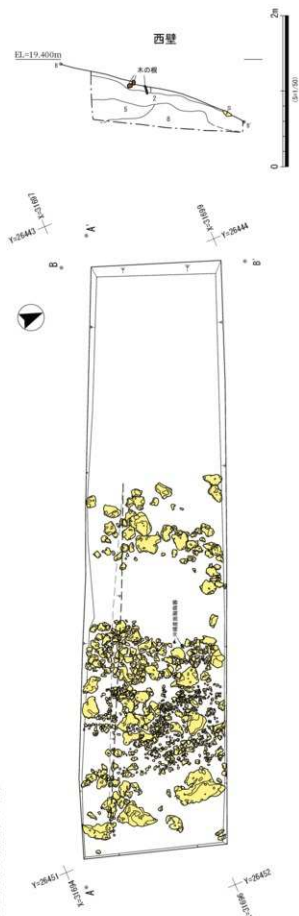
3. 土留めの一部が、礫をあまり含まない、しまりやや強い粘質土層。

1b, 斜面部に堆積する泥礫土。しまりやや強く、4aに比べてやや砂質が

5. クチャのブロックが少し湿る。粘土層、細まり強く、水分多、礫の混入は下段のクチャ層直

17. 琉球石灰岩岩盤、上段(東側)でのみ確認。

© 2005 Blackwell Publishing Ltd, *Journal of Internal Medicine* 258: 107–115





調査前（西から）



礫散き清掃



礫検出状況



南壁〔北から〕



南壁



西壁



礫散き検出〔南東から〕

図版Ⅳ-1 試掘坑①

(2) 試掘坑② (Aライン)

ヤマガーから南西側約50mの地点に2m×8mで設定。現況地形は割と平坦となっている場所で、樹木が少なく調査しやすい場所を選択した。設定方法としては、里道を含めることはもちろん、航空写真や現地状況などから道筋が里道よりも北側にズレている可能性が高いことを考慮し、北側（北西側）に長く設定した。調査の結果、表土下約5cmのところから幅1m程の範囲で細礫（2cm～5cm程度）が敷かれている状況（礫敷遺構）を検出した。道幅が想定よりも狭いため、一部削られて消失している可能性がある。断面で見ると中心部分が厚く、外側が薄い。地山に直接礫を敷くわけではなく、その前に礫を含まない褐色土を入れていることがわかった。これは道を平坦にするための盛土であると考えられる。また、礫敷の南側5mには道筋に沿って溝（幅約70cm、深さ約30cm）が並走していることが判明した。

※R2調査で確認した結果、雨水処理のための側溝ではないかと想定される。



調査前（北西から）

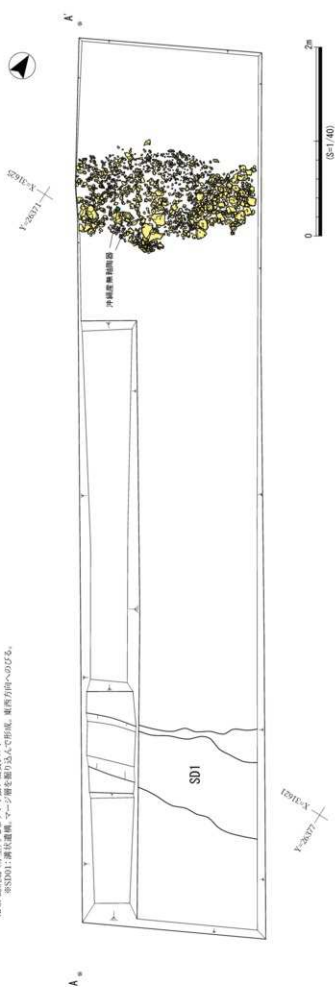


調査前（南東から）

第IV-3図 試掘坑②



1. 1a. 現表土 (硬粘土)。
1. 1b. 造成土、礫状堆積物。
2. 2a. 隆起遺構の直上に堆積する礫。西海道の一部か? 粘質のやや強い層で、礫も少ない。
2. 2b. 隆起遺構の直上に堆積する礫。西海道の一部か? 粘質のやや強い層で、礫も少ない。
3. 3. 隆起遺構の直上に堆積する礫。西海道の一部か? 粘質のやや強い層で、礫も少ない。
4. 隆起遺構の下層 (北側) に堆積する礫。西海道の一部か? 粘質のやや強い層で、礫も少ない。
5. 隆起遺構の下層 (北側) に堆積する礫。西海道の一部か? 粘質のやや強い層で、礫も少ない。
6. 隆起遺構の下層 (北側) に堆積する礫。西海道の一部か? 粘質のやや強い層で、礫も少ない。
7. 隆起遺構の下層 (北側) に堆積する礫。西海道の一部か? 粘質のやや強い層で、礫も少ない。



第IV-4図 試掘坑②



遺構残出状況（南から）



遺構（SD1）残出状況



遺構（SD1）断面



礎敷遺構断面（西壁）



礎敷遺構残出状況（西から）

(3) TR04 (Aライン)

AラインとBラインの合流地点付近に位置。1m×9mで設定。地表面から20cm程は基地造成土が堆積。トレンチ中央より、土地整理事業（明治）に係る図根点と思われる石柱を検出。上面に十字の切れ込みがあり、方位は30度程ズレがある。TR中央から北側は緩やかな斜面となっており、2層除去後に礫層を確認。礫は10cm大で幅2m程面的に広がっていた。これらは道の路盤材や土留めの可能性が考えられる。また、TR東側を掘り下げたところ、礫混じりの黒褐色土を検出。出土遺物からグスク時代の包含層と推定される。R4年度緊急発掘調査で周囲一帯を全面的に掘り下げた結果、グスク時代の包含層及び掘立柱建物跡と思われるビット群などを検出した。



調査前 (南から)

断面図



- 11. 10YR3/7 赤土(腐植土)、土壌が硬い、粘質シルト。
- 12. 10YR5/4 により、黄褐色の質シルト、10cm以下の小礫が混じる。
- 13. 10YR4/4 褐色砂質シルト、やや硬く、5cm以下の礫が多く混じる。炭化物が少量混じる。沖積面直下層が出土。
- 14. 10YR2/2 黒褐色粘質シルト、炭化物や機土粒が混じる。グスク土層やかんかん、瓦礫などが出土。



黒褐色土核出〔南から〕



図根点と礎敷〔東から〕



黒褐色土（4層）と礎敷〔東から〕



TR04 出土遺物



図版Ⅳ-3 TR04

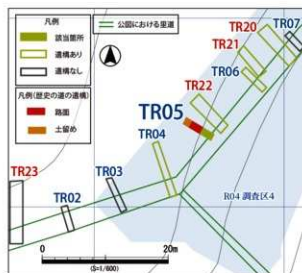
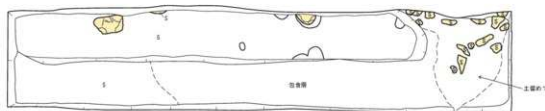
(4) TR05 (Aライン)

TR04から北東側10m程の位置に1m×5mで設定。現地表面から10～20cm程度が表土（腐植土）及び造成土で、下層からはやや粘質の強い黒褐色土が検出された。TR04と同じグスク時代の包含層と思われる。また、トレンチ北側ではこの層の上に暗褐色土が薄く堆積し、その中に礫が集中して充填されていることが判明した。礫集中箇所はトレンチの北側の低くなる手前で検出しており、土留めの可能性がある。なお、黒褐色土の下は赤土（マーグ）層となっており、平面及び断面でピットが複数確認された。平坦面は削平されていることから、本来路面であった部分は削られて消失している。

西壁



- I 1. 10YR3/3 表土（腐植土）及び戦後造成土層。
 II 2. 10YR3/3 暗褐色粘質シルト、礫を含む層で、しまりやや強い。TR北側に礫がまとまって出土しており、土留めの可能性がある。
 IV 3. 10YR3/4 暗褐色粘質シルト、2層と類似するが、礫を含まずやや黒味が強い。
 IV 4. 10YR2/3 黒褐色粘質シルト、しまりやや強い、グスク土器や青磁などを多く含む。
 VII 5. 7.5YR6/8 明黄褐色粘質シルト、島尻マーグ、赤土、4層覆土のピットを複数確認。



縦横出状況（南から）

第IV-6図 TR05



西壁 ピット確認



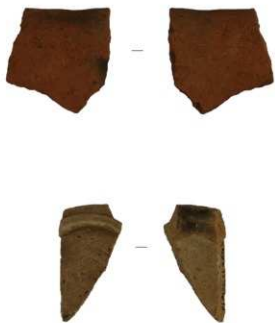
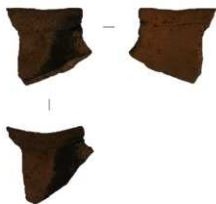
壁面実測



機核出



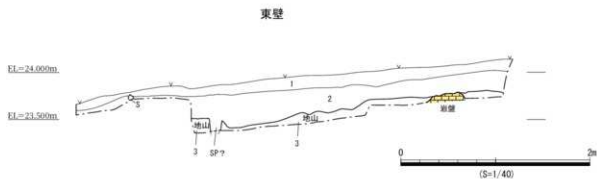
発掘状況（北西から）



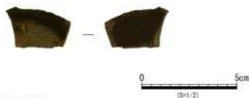
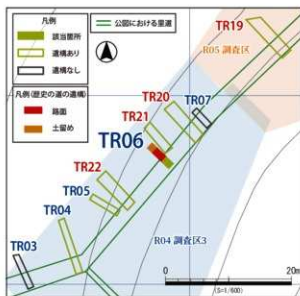
TR05 出土遺物

(5) TR06 (Aライン)

TR05から北東側10m程の位置に1m×5mで設定。地表面から約10～20cmが表土(腐植土)で、下層の暗褐色粘質シルトが厚く堆積し、トレンチ北端で5～10cm程度の小礫が集中している状況を検出した。かなりまばらではあるものの、試掘坑②と類似する状況から道の遺構の一部(路盤材?)ではないかと推測される。トレンチの北側先は一段低くなっており、土留めが残存する可能性もある。南側については下層確認のために小トレンチを設定して掘り下げたが、赤土(マージ)と岩盤が検出された。ちなみにTR04とTR05で検出された黒褐色土は確認されていない。



- I 1. 10YR3/3 表土(腐植土)。
 III 2. 10YR4/6 褐色粘質シルト、やや細りが強く、層中に礫は少ないが、北側で層上面に5～10cm程の礫が散らかれる。
 炭化物や焼土粒が少量混じる。
 VII 3. 7.5YR6/8 褐色粘質シルト、烏炭マージ。東壁でピット1基検出。TR04やTR05で確認された黒褐色粘質シルト(4層)は確認されなかった。



TR06 出土遺物



線敷遺構 (北西から)



東壁



東壁



東壁



ビット検出



サブトレンチ (南東から)



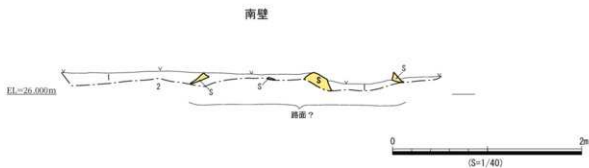
破敷検出 (北東から)



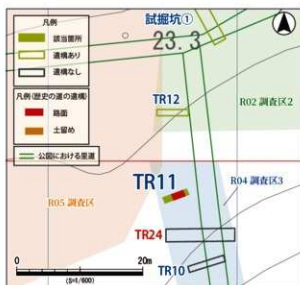
作業状況

(6) TR11 (Cライン)

グスクンダと呼ばれるCライン上に設定。地籍上の里道ではなく、5～10cm大の礫が集中してみられる現地の状況と航空写真からの推定ラインに合わせて試掘坑を1m×4m設定した。調査の結果、表土（腐植土）を少し掘り下げた段階で礫数を検出した。また、礫敷の西端には20～30cm大の石が並び、緑石ではないかと考えられる。遺構を検出した段階で掘削を中断した。



- I1, 10YR3/1 表土（腐植土）。しまり弱い、黒褐色粘質シルト。5～10cm大の礫を含む。
 II2, 10YR4/4 褐色砂質シルト。1～10cm程度の礫が少量に混じる。しまりやや強く、焼土粒が混じる。



作業状況



調査前（東から）

第IV-8図 TR11



磯敷検出（北から）



磯敷検出（南西から）



磯敷検出（西から）



南壁①



南壁②



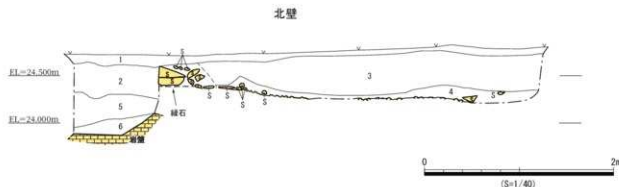
南壁③



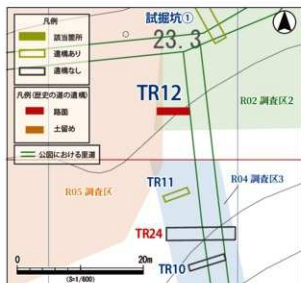
実測作業

(7) TR12 (Cライン)

AラインとCラインの交差点に近い位置する。TR11と同じく現況地形や航空写真からの推定ライン上に1m×5mで設定。表土（腐植土）は薄く、その下に細かい礫がまばらに混じる褐色土が堆積。地表面から約40cm下から細かい礫が充填されている状況を確認した。さらに礫充填の西端には緑石とみられる少し大きめ（20cm大）の礫の並びを検出。この緑石の西側では地表面から40cm程攪乱土が堆積していることを確認した。当初、礫敷がすべて道の遺構とした場合、幅員が3mを超えること、当該試掘坑の周辺が喜友名下原第二遺跡の包蔵地内であることから、道以外の遺構の可能性も考えられた。



- II. 10YR3/2 表土（腐植土）。しまりやや弱く、粘質強い。
 I2. 7.5YR4/4 褐色砂質シルト。しまり非常に強く、粘質強い。20cm以下の礫が多く混じる。TRの西端にのみ堆積。攪乱土と思われる。
 III2. 10YR4/6 褐色粘質シルト。しまりやや強い。礫層の上部に堆積する。20cm以下の礫が多く混じる。
 III4. 7.5YR4/4 褐色砂質シルト。5cm~10cm大の礫が敷き詰められた層で、礫敷きの西端には30cm大の緑石が配置される。
 III5. 7.5YR4/6 褐色粘質シルト。緑石の西側に堆積する層。粘質、締り弱。炭化物や粘土粒が混じる。
 IV6. 7.5YR5/6 明褐色粘質シルト。しまり強い。多量の石灰岩礫が混じる。
 VII7. 琉球石灰岩岩盤。



第IV-9図 TR12

調査前〔南東から〕



検出状況〔東から〕



検出作業



分類



緑石〔北から〕



緑石検出〔南から〕



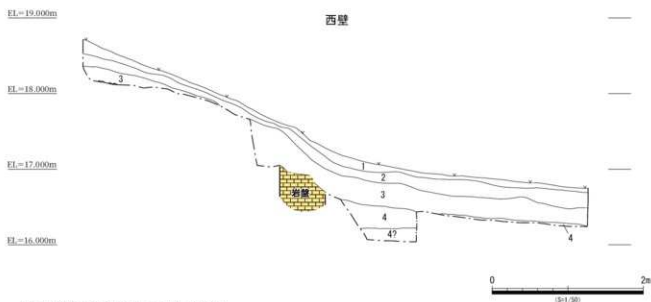
西側北壁



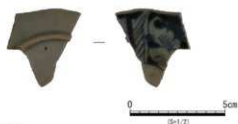
硬敷検出 全体〔西から〕

(8) TR13 (Dライン)

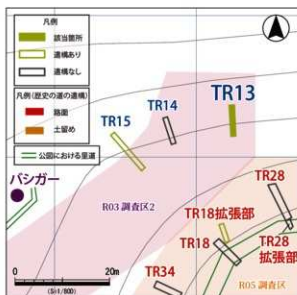
バシガーからヤマガーに向かう想定ルート上に1m×6.5mで設定した。設定箇所は南側から北側へ傾斜しており、現況地形から見ると北側にややフラットな面が確認されていることからそこが道筋ではないかと想定していた。しかし、調査の結果、南側の斜面部分で礫敷が確認され、北側は造成土であることが判明した。礫敷遺構はトレンチの南側へ伸びているようであったが立木があったことから今回の試掘調査では広げることができなかった。当初は道に関連する遺構(礫敷)かと想定されたが、令和3年度に実施した本調査により、段状地形を造るために入れられた礫であることが判明した。



- Ⅰ. 10YR3/3 表土(腐植土)。しまり強い、粘質シルト。
 Ⅱ. 10YR4/6 褐色粘質シルト。しまり、粘質やや強い。戦後造成層か。
 Ⅲ. 10YR5/4 により黄褐色粘質シルト。TRの南側に5cm大の礫が堆積する。本土産磁器などを出土。
 Ⅳ. 10YR4/6 褐色粘質シルト。しまりやや強い。焼土粒が少量混じる。



TR13 出土物



調査前状況(南西から)

第Ⅳ-10図 TR13



集礫検出 [北東から]



集礫検出 [東から]



TR13 北側 西壁



集礫 [平面]



集礫検出 [北西から]



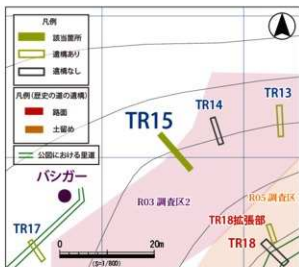
作業状況



サブトレンチ [北から]

(9) TR15 (Dライン)

バシガーの東側25m程の地点に1m×10mで設定。トレンチ南側で集磔遺構を検出。磔敷遺構はトレンチのさらに南側へ続いている。トレンチ北側では地山面でピットや溝状遺構などの複数の遺構が検出された。磔は大小様々で褐色土も一緒に含まれており、地山を掘り込んで入れているようである。今回見つかった集磔遺構がDライン（歴史の道）のものかは不明である。一帯はほぼ平坦で集磔遺構もフラットに敷かれている。

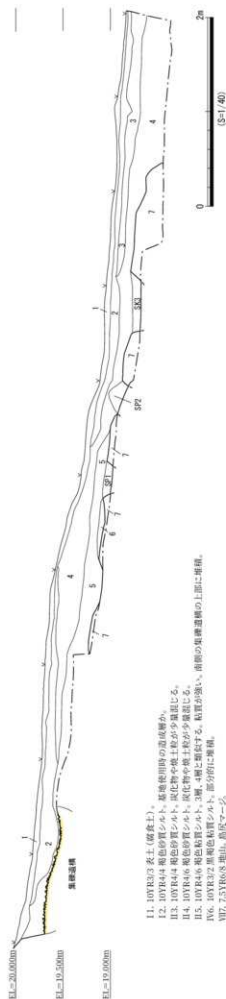


撮影状況



TR15 出土遺物

0 5cm





作業状況



標準出状況〔北東から〕



完掘状況〔南東から〕



完掘状況



TR15 北西端・路西壁



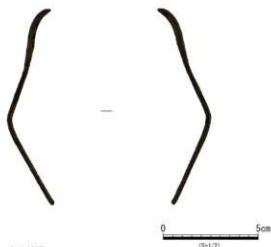
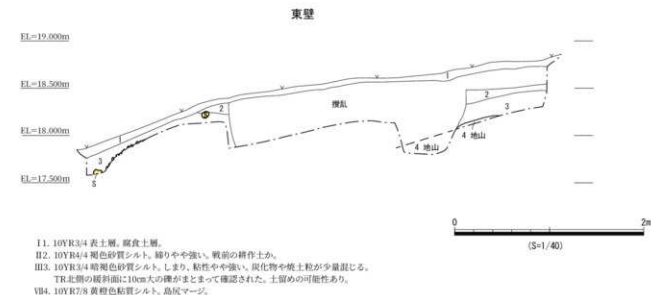
遺構検出状況



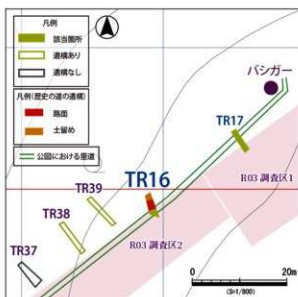
遺構検出状況

(10) TR16 (Dライン)

バシガーとミーガーの間に1m×5mで設定。トレンチ北側は緩やかな斜面となっており、表土下、3層中より礫がまとまって検出された。これらは土留めとして構築された可能性がある。南側では一部攪乱を受けているが、現地表面から-30cmレベルで近世～近代相当の耕作土と思われる褐色土が検出されている。土留め遺構からは簀（ジューファー）が出土しており、近世頃の構築と思われる。礫集中部が土留め遺構であれば路面部分は攪乱により消失している。



TR16 出土状況



調査前〔東から〕



遺構検出 全体〔北西から〕



集積検出 近場〔北西から〕



露出土状況



集積検出状況〔北東から〕



集積検出状況〔西から〕



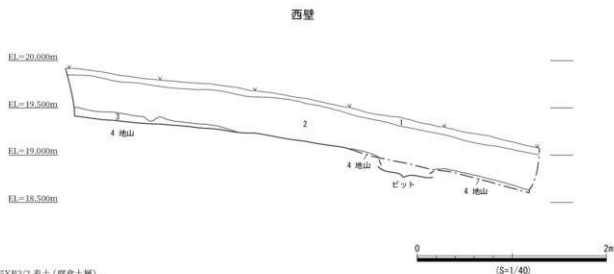
東壁



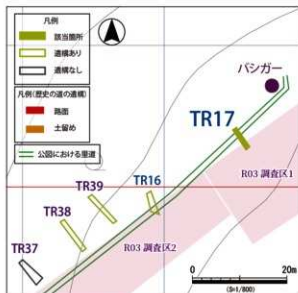
完掘状況〔北から〕

(11) TR17 (Dライン)

バシガーから南東側10m程の地点に1m×5mで設定。現地表面から-50cmレベルで地山（島尻マージ）を検出。地山面では暗褐色土を覆土とする性格不明の遺構（ビット）が5基検出された。地山より上層は攪乱土であり、道に関連する遺構や包含層は基地使用時に削平されたものと思われる。なお、検出された遺構（ビット）は当該区域に所在する喜友名下原第二遺跡に関連する遺構と思われ、グスク時代まで遡る可能性がある。



- I1. 7.5YR3/2 表土（腐食土層）。
 I2. 10YR4/4 褐色砂質シルト。締り強い、2cm～10cm大の礫が多く混じる。基地使用時の造成土。
 II3. 10YR4/4 褐色砂質シルト。2層に類似するが、礫の混入が少ない。焼土や炭化物粒が少量混じる。
 VII4. 7.5YR5/6 明褐色粘質シルト。地山の島尻マージ層。上面にビット5基を確認。



遺構検出（北西から）

第IV-13 図 TR17



表土掘削



検出作業



遺構検出



TR 南側 西壁



完壁状況 [東から]

第Ⅳ－１表 令和元年度 試掘坑調査成果一覧－1

連番	試掘坑	座標			標高 (m)	規格 (m)	掘削 深度 (m)	岩盤 (m)	遺構・包含層	遺跡	ルート	報告
		杭	X	Y								
1	試掘坑 ①	①	31699.139	26444.351	18.613	2×8	0.6	0.1	礫敷遺構	喜友名・新城の宿道	A	●
		②	31696.102	26451.484	21.044							
		③	31694.294	26450.906	21.240							
		④	31697.355	26443.753	19.228							
2	試掘坑 ②	①	31626.640	26373.403	—	2×8	1.0	—	礫敷遺構、 溝状遺構	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第二遺跡	A	●
		②	31619.612	26377.225	—							
		③	31618.701	26375.550	22.340							
		④	31625.684	26371.646	23.890							
3	TR01	①	31540.898	26239.935	—	1×9	0.5	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	
		②	31531.980	26241.316	—							
		③	31531.808	26240.331	20.700							
		④	31540.713	26238.932	20.560							
4	TR02	①	31540.683	26255.011	22.170	1×4	0.5	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	
		②	31536.742	26256.165	22.310							
		③	31536.460	26255.206	—							
		④	31540.399	26254.036	—							
5	TR03	①	31545.045	26262.074	—	1×6	1.0	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	
		②	31539.982	26264.429	—							
		③	31539.562	26263.522	23.080							
		④	31544.891	26261.156	22.080							
6	TR04	①	31549.715	26269.476	—	1×9	0.5	—	礫敷遺構、 図机点（明治）	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	●
		②	31542.341	26272.217	—							
		③	31541.997	26271.279	23.400							
		④	31549.371	26268.538	21.900							
7	TR05	①	31554.636	26273.814	22.400	1×5	0.5	—	集積遺構（土留め） ピット	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	●
		②	31552.062	26278.100	23.190							
		③	31551.205	26277.586	—							
		④	31553.779	26273.299	—							
8	TR06	①	31562.681	26283.189	23.650	1×4.6	0.5	0.5	礫敷遺構	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	●
		②	31559.477	26286.490	24.130							
		③	31558.760	26285.794	—							
		④	31561.963	26282.493	—							
9	TR07	①	31568.283	26290.247	—	1×3.4	0.3	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	
		②	31565.815	26292.586	—							
		③	31565.127	26291.860	24.350							
		④	31567.595	26289.521	24.010							
10	TR08	①	31536.799	26219.306	—	1×11	1.0	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	
		②	31526.401	26222.991	—							
		③	31526.064	26222.050	19.540							
		④	31536.462	26218.365	19.280							
11	TR09	①	31536.337	26225.932	—	1×8	0.5	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	
		②	31531.267	26228.296	—							
		③	31530.844	26227.391	19.850							
		④	31535.914	26225.027	19.850							
12	TR10	①	31585.292	26376.922	27.850	1×6	0.5	—	—	喜友名西原遺跡、 喜友名下原第二遺跡	C	
		②	31584.338	26377.222	—							
		③	31582.581	26371.560	—							
		④	31583.531	26371.295	27.400							
13	TR11	①	31595.819	26371.093	26.190	1×4	0.1	0.1	礫敷、石列遺構	喜友名下原第二遺跡	C	●
		②	31594.874	26371.420	26.230							
		③	31593.581	26367.684	—							
		④	31594.523	26367.354	—							
14	TR12	①	31608.442	26371.381	24.800	1×5	1.0	1.0	集積遺構	喜友名下原第二遺跡	C	●
		②	31607.442	26371.376	—							
		③	31607.464	26366.414	—							
		④	31608.445	26366.402	24.720							
15	TR13	①	31641.395	26327.053	—	1×6.5	0.7	0.7	礫敷遺構、 段状地形	喜友名下原第二遺跡	D	●
		②	31634.845	26327.458	—							
		③	31634.785	26326.460	18.700							
		④	31641.335	26326.055	16.740							

第Ⅳ－２表 令和元年度 試掘坑調査成果一覧-2

連番	試掘坑	座標			標高 (m)	規格 (m)	掘削 深度 (m)	岩盤 (m)	遺構・包含層	遺跡	ル ー ト	報告
		杭	X	Y								
16	TR14	①	31638.897	26313.009	17.950	1×6	0.6	0.6	—	喜友名下原第二遺跡	D	
		②	31633.349	26314.820	19.470							
		③	31633.041	26313.868	—							
		④	31638.589	26312.057	—							
17	TR15	①	31635.640	26301.789	—	1×10	0.5	—	碑敷遺構、ビット、 溝状遺構	喜友名下原第二遺跡	D	●
		②	31628.164	26308.298	—							
		③	31627.475	26307.551	20.020							
		④	31634.982	26301.037	18.800							
18	TR16	①	31599.491	26256.336	17.850	1×5	0.9	—	集線遺構（土留め）	喜友名下原第一遺跡	D	●
		②	31595.132	26256.376	18.850							
		③	31594.531	26258.106	—							
		④	31598.871	26255.439	—							
19	TR17	①	31612.932	26274.407	—	1×5	0.6	—	ビット（5基）	喜友名下原第二遺跡	D	●
		②	31608.788	26277.204	—							
		③	31608.229	26276.376	19.920							
		④	31612.373	26273.578	19.120							

※1 座標値は日本測地系で、北緯経から時計回りに設定

※2 「掘削深度」は現地表面からの最大値で「岩盤」検出値

※3 「報告」の「●」は本書に掲載している試掘坑

第Ⅳ－3表 令和元年度調査 遺物集計表－1

トレンチ名			T802	T803	T804					T805					T806		T807			
遺物の分類・図種・部位				覆瓦層	障土	北側	覆瓦層	耕作土?	包合層	一括遺物	障土	灰床部	1層	包合層	一括遺物	表土	表土	2層		
グ ス ク	土層	遺	口縁							4										
		鍋	口縁							3										
			口〜胴							1										
		不明	胴部		14	1		1	3	7	80	1	3	1		1	3			
			胴〜底								3									
		底面		2						1										
		不明		2					2	21										
遺石製石鍋			胴〜底		1															
カ ム イ ヤ キ	不明	口縁															1			
		胴部		1						1										
		胴〜底																		
中 国 産	白磁	底面								1										
		皿															1			
		不明	口縁															1		
			口〜胴		1					1										
		胴部				1														
	青磁	底面															1			
		皿		1													1			
		鍋									1									
		胴部		1																
		口縁		1						2										
		不明		3						1			1	1				1		
		不明																		
	青花	皿		口〜胴																
		皿		胴〜底																
		不明	口縁																	
		胴部	1		1															
		胴部																		
沖 縄 産	施 陶 器	胴部																		
		口縁																		
		胴部																		
		胴部																		
		胴部																		
		胴部																		
		胴部																		
		胴部																		
		胴部																		
		胴部																		
	無 陶 器	底面																		
		皿		胴〜底																
		磨鉢		胴部																
		不明		口縁																
	ア カ ム ヌ ー	不明	胴部																	
		不明	胴〜底							2										
		不明	胴部	1																
		不明	胴部																	
宮古式土器	不明	胴部														1				
本 土 産	磁 器	小瓶																		
		底面																		
		急須																		
		注口																		
		不明		胴部	1															
明 朝 系 赤 瓦	磚 瓦	磚瓦?																		
		平瓦		1																
		丸瓦																		
		不明																1		
		不明																		
明 朝 系 灰 瓦	平瓦																			
現 代 瓦	平瓦																			
青銅製品	簪	押差		1																
鉄製品	鐵釘									1										
	釘																			
	U字留鉄																			
プラスチック	不明																			
	磨石																			
	石製品	磨石	1																	
石	ニービ											1								
	砂岩																			
	サンゴ石																			
	不明																			
	敷石																			
貝類	敷石																			
	敷石																			
	二枚貝	ヒナガノイ ヒナガノイ ヒナガノイ																		
炭化物																				
障土																				
計			5	2	1	50	2	7	1	5	14	142	2	4	3	17	4	13	7	1
				3								168				17			8	

第Ⅳ－４表 令和元年度調査 遺物集計表-2

トレンチ名			TR08			TR09		TR12	TR13	TR14	TR15		TR16		TR17	合計				
遺物の分類・図種・部位			総部数	覆瓦層	3層	低遺物	覆瓦層	2層	西側 深層	表土	3層	表土	表土	東側 浅層より	2層	覆瓦層	溝底中部	表土	2層	
グ ス ク	土器	面	口縁																	4
		隅	口縁																	3
			口～胴																	1
			口縁																	5
		不明	胴部		1			1	1		1		1		5			1		14
	胴～底																		3	
	底面																		0	
滑石製石積			胴～底																	2
カムイヤキ	不明	口縁																2	1	5
		胴部																		1
		胴～底																		1
中 国 産	白磁	面	底面																	1
		皿	底面																	1
		不明	口縁																	1
		碗	口～胴																	1
			胴部												1					2
			底面																	1
	青磁	小碗	底面																	1
		皿	口～胴																	1
		瓶	胴部																	1
			胴～底																	1
			口縁																	1
		不明	胴部			1							1							1
	青 花	不明	胴部												3		1		2	13
		碗	口～胴																	1
			皿	胴～底																1
			口縁																	1
地 輪 陶 器		不明	口縁																	1
		面I類(A)	胴部																	2
		面I類(B)	胴部																	1
		面I類(C)	胴～底																	1
		面I類(D)	底面																	1
		小碗I類(2層)	口縁	1																1
		小碗I類(2層)	胴～底																	1
		大人I類	底面																	1
		不明I類(E)	胴部		1	1														1
		不明I類	胴部			1														1
	不明I類(F)	底面																	1	
不明I類(G)	胴部																	1		
不明II類	胴部															1		2		
無 釉 陶 器	面	底面		1															1	
	皿	胴～底		1															1	
	横鉢	胴部		1	2				1									2	6	
	口縁															1			1	
	不明	胴部		2	1	2		1	1	1								1	11	
	不明														2		1		3	
	ブ ル ム ス ー	鉢	胴～底		1					1										2
		不明	胴部		1	4	1							1					10	
		不明	胴～底														1			1
	陶 質 土 器	不明	胴部														1			1
不明		胴部																	1	
不明		胴部																	1	
宮 古 式 土 器	磁器	小皿	口縁																	1
		小皿	底面																	1
		急須	注口																	1
		不明	胴部																	1
		不明	胴部																	1
本 土 産	磁器	磨子?																		1
		平瓦		8	5			2	2		1							1		20
		丸瓦		1																1
		不明				1														1
		平瓦											1							1
	青銅製品	簪																		1
		押巻																		1
		簪																		1
		打																		1
		U字形状																		1
鉄製品	不明																		1	
	不明																		1	
	不明																		1	
プラスチック	石製品	磨石																	1	
		磨石																	1	
石	ニール																		1	
	砂岩																		1	
	サンゴ石																		1	
	不明																		1	
	不明																		1	
磨 石	貝類	磨石																		1
		磨石																		1
		磨石																		1
		磨石																		1
		磨石																		1
炭化物	磨石																		1	
	磨石																		1	
	磨石																		1	
	磨石																		1	
	磨石																		1	
計	計	計	17	21	8	1	3	6	6	2	3	2	1	4	9	6	1	9	11	39
		計	47					9	6	6	5	3	3		16	7		20		

第2節 令和3年度の調査

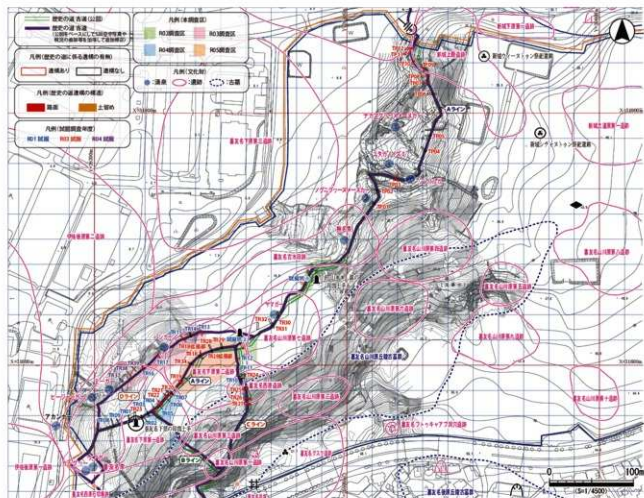
1. はじめに

令和元年度に実施した試掘調査及び令和2年度の緊急発掘調査において、西普天間住宅地区内に中頭方北海道（喜友名・新城の宿道）をはじめとした近世～近代に築造された古道、いわゆる「歴史の道」が良好に残存していることが判明した。しかし、これらの調査は喜友名地区における極限られた範囲での調査であった。そのため、令和3年度では当該地区内の歴史の道についてそのルートと遺構の有無を確認するため喜友名側に17箇所、新城側に12箇所の計29箇所を試掘坑を設定した。

前章でも報告したとおり、喜友名側には中頭方北海道（喜友名・新城の宿道）をAライン、そこから分岐する脇道をBライン、Cライン、Dラインの4本の道筋が確認されている（喜友名泉へ降りるカービラを含めると5本の道筋がある）。喜友名側に設定した17箇所の試掘坑の内訳としては、Aラインに13箇所、Cラインに4箇所である。また、新城側にはAラインしかないため、12箇所の配置はすべてAライン上となっている。

以下に試掘調査の成果を各試掘坑毎に報告するが、紙幅の都合により遺構が確認された試掘坑のみ詳細を報告し、その他の試掘坑については一覧表（第IV-5・6・7表）に掲載した。

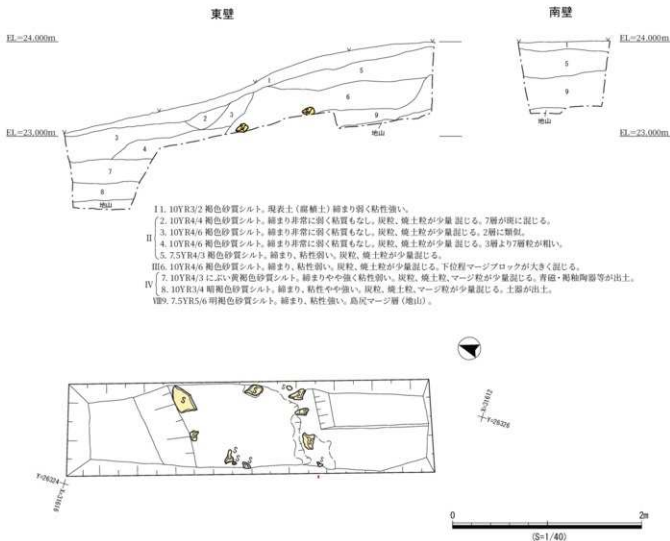
なお、試掘坑の番号は令和元年度調査から引き継ぎ、TR18から連番で採用した。但し、新城側は喜友名側とほぼ同時に委託業務で調査を行ったため、便宜上TR〇と統一せず、TP〇1～と試掘坑の番号を振っている。



第IV-14図 令和3年度調査位置図

(1) TR18拡張部 (Aライン)

TR18の北東方向、旧地形が残存していると思われる平場及び斜面部を含めた地点に1m×4mの試掘坑を設定した。現地表面から45cm程で土留め遺構と思われる幅約1mの2条の石列が検出された。石列よりも南側では、石列が検出された高さで地山（マージ）が確認されている。ただし、路面と考えられる礫は確認されていない。なお、TR18では礫敷や土留め等の遺構は確認できていない。



石列7出土状況1 (南より)

第IV-15図 TR18 拡張部



東壁



東壁



平面状況〔西より〕



平面状況〔西より〕



石列横出状況〔西より〕

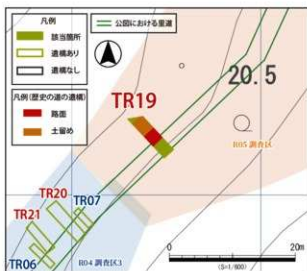
(2) TR19 (Aライン)

TR18から南西方向約50m地点に2m×7mで試掘坑を設定した。現地表面から約10～20cmレベルで礫敷き遺構が検出された。礫は2～5cm大で、部分的にはあるが一定のまとまりが見られた。検出状況から路面を構成する遺構と思われるが、北西側は傾斜しているため、一部土留めの役割もあるものと推察される。

現況地形がやや緩やかな傾斜をしているため、路面と土留めの境目が不明瞭であるが斜面下端から1m程が土留めとして想定される。土層断面からは平坦面が2面確認できる。そのほか、グスク時代相当と思われる溝状遺構が確認された。

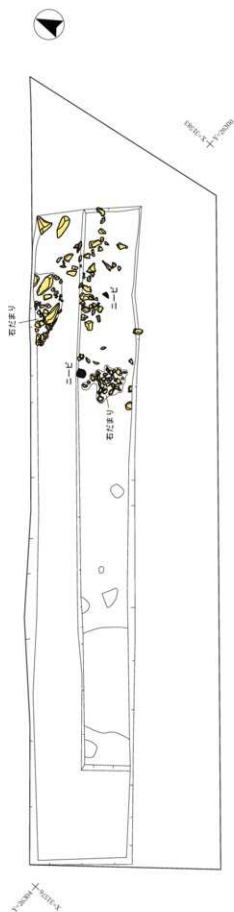
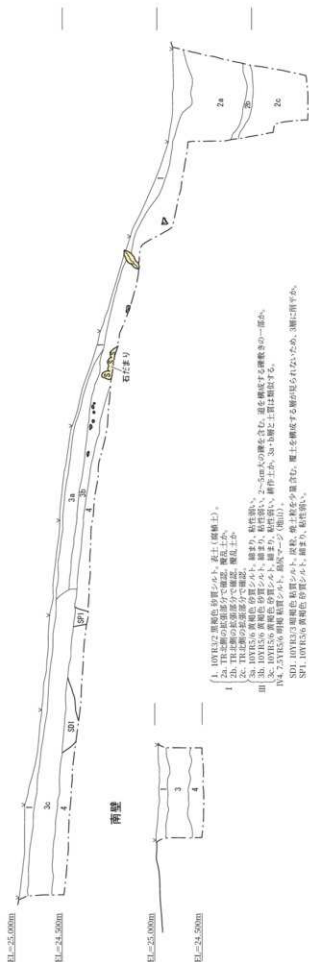


TR19 出土遺物



掘削前状況 (略北より)

西壁





ピット掘出状況 [略北より]



先掘状況 [略南より]



礎敷き掘出状況 [略西より]



西壁 [略東より]



西壁 [略東より]



グスク遺構掘出状況 [略南より]



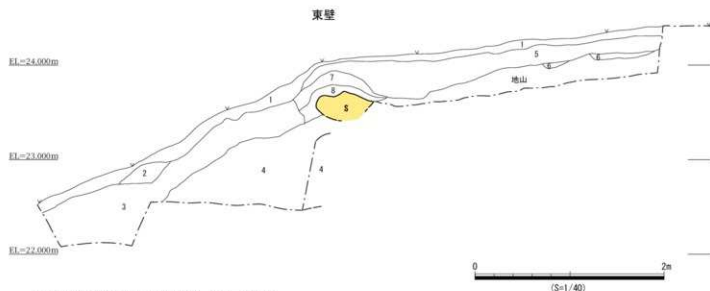
拡張部分西壁



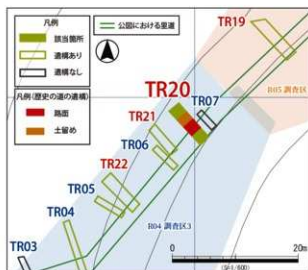
南壁 [略北より]

(3) TR20 (Aライン)

TR20は、TR19から南西方向約20mの地点に2m×5mで設定した。斜面部分（TR北側）から拳大（10～20cm）の礫が詰められた礫層が検出された。層厚は約1mで礫は多量に認められるが空隙が目立つ。検出された状況から土止めの可能性が考えられる。TR南側では礫敷きなどの道に関連する遺構は確認できなかった。地山のマージ層が削平されていることが確認できたため、道に関連する遺構等は消失したと思われる。



1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト。表土（腐植土）。締まり、粘性弱い。
2. 10YR4/6 褐色砂質シルト。礫混じり層。締まり、粘性弱い。
3. 10YR4/4 褐色細砂。土留め層を覆う層。締まり、粘性弱い。小礫や植土、炭化物が多く混じる。
4. 10YR4/4 褐色細砂。道の土留めと考えられる層。締まり、粘性やや弱い。10cm～20cm大の礫が充填される。
5. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト。締まり悪い。粘性弱い。0.5mmの焼土が混じる。0.5～1mm大のマージ粒がやや多く混じる。2cm大の石灰岩粒が僅かに混じる。
6. 10YR5/6 黄褐色粘質シルト。締まり良い。粘性やや強い。巻き上げられた地山か。
7. 10YR5/6 黄褐色粘質シルト。締まり良い。粘性やや強い。巻き上げられた地山か。
8. 10YR5/6 黄褐色粘質シルト。締まり良い。粘性やや強い。巻き上げられた地山か。



土留め縦断面状況

第四-18 図 TR20



北側斜面 礫検出状況



東壁①



東壁②



床面

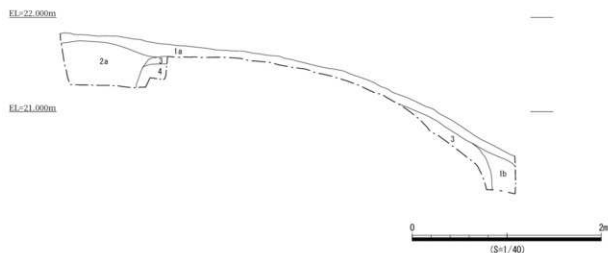


土留め遺構

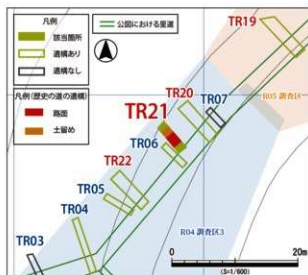
(4) TR21 (Aライン)

TR21は、TR20の南西側約5mの地点、令和元年度に調査したTR06を補完するように隣接して2m×5mの試掘坑を設定した。調査により、現地表面から-10cm程で礫敷き遺構が検出された。遺構はAラインの一部と考えられ、検出箇所から平坦部の路面と斜面部の土留めの2つに大別できる。礫敷き遺構からは、青磁片が確認された。右図のように、TR06で検出された礫敷き遺構と繋がる形で礫敷き遺構が確認されているため、道として遺構の広がりが確認できる。

西壁



- I 1a. 10YR3/2 黒褐色表土（腐植土）。
 1b. TR北西側に堆積。耕作土起源の流れ込みか。
 II 2. 7.5YR4/4 褐色砂質シルト。締まり強く、粘性弱い。炭粒、粘土粒、石灰岩粒を多く含む。耕作土か。
 III 3. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト。締まり強く、粘性弱い。炭粒、粘土粒を多く含む。マージ粒は少量。礫敷きと土留めは本層に含まれる。
 4. 10YR4/6 褐色粘質シルト。締まり、粘性強い。下層程粘性が強く、マージ粒が多く混じる。



西壁

第IV-19図 TR21



掘削状況〔路北東より〕



西壁 土留め〔路東より〕



土留め検出状況（真上）〔路西より〕



擁壁き検出状況〔南より〕



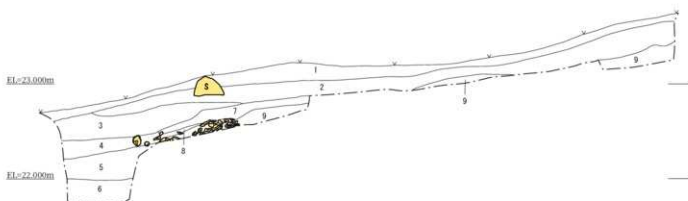
掘削状況〔北西より〕

(5) TR22 (Aライン)

TR22は、TR21から南西方向約10mの地点に2m×5mで試掘坑を設定した。現地表面から-10cm程で礫敷き遺構と思われる礫が試掘坑の北側で確認された。しかし、全体的に礫の状態は疎らで、混礫土層の様相を呈している。礫敷きの下層を確認するために東側に小トレンチ（50cm幅）を設定して礫敷きを半載したところ、地表面から-60cmレベルで地山（マージ層）と北側に10cm大の石灰岩礫のまとまり（礫層）が検出された。試掘坑を設定した場所は緩やかな斜面となっており、路面か土留めか判断が難しいが、土層断面をみると地山が切れる部分と同じレベルで礫層が確認できるため、土留め遺構とした。

東壁

EL=24.000m

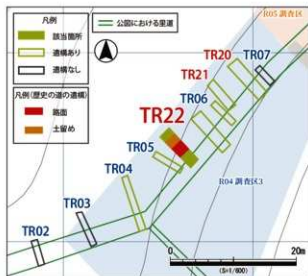


1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト。細まり、粘性弱い。表土（腐植土）。
2. 10YR4/4 褐色砂質シルト。細まり、粘性やや強い。炭粒、焼土粒、マージ粒を少量含む。戦後造成層。
3. 10YR5/4 に近い黄褐色砂質シルト。細まり弱く、粘性やや強い。炭粒、焼土粒を少量含む。マージ粒は多く混じる。戦後造成層か。
4. 10YR4/6 褐色砂質シルト。礫混層。
5. 10YR4/4 褐色砂質シルト。礫混層。黍稷等が出土。
6. 10YR4/4 褐色砂質シルト。
- II7. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト。細まり、粘性やや強い。焼土粒、マージ粒を含む。旧表土か。
- III8. 10YR5/4 に近い黄褐色砂質シルト。細まり強く、粘性やや強い。5~10cm大の礫を含む。土留めの構成する盛土か。
- IV9. 7.5YR6/8 褐色粘質シルト。島尻マージ層（地山）。

0 2m
(S=1/40)



土留め検出状況（略東より）



第IV-20 図 TR22



東壁（略西より）



東壁（略西より）



東壁（略西より）



東壁（略西より）



土留め横出状況

(6) TR25 (Cライン)

Cラインは掘削前から地表面に礫を確認できる。TR25はAラインとCラインの交点から南側に約50mの地点に2m×7mで設定した。礫層は1～5cm大の礫が主体となる層が地表面～-10cmまでみられ、-10cmから下層は15～30cm大の大振りの礫が主体となる。さらに、礫層が地山（マージ）を掘り下げ、扁平形の礫を敷きならべるように造られていることが確認された（1～5cm大→15～30cm大→扁平の順に礫が敷き詰められる）。

試掘坑は平坦部から斜面にかけて設定したが、平坦部の礫層を路面、斜面部の礫層を土留めと想定した。ただし、平坦部の礫層（地表面～-10cm）より下層に平坦な地山が確認できることから、土の路面という可能性も考えられる。

南壁

EL=30.000m

EL=29.000m



- I
 1. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト、表土（腐植土含む）
 - 2a. 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性強く、締まりやや強い、造成土。
 - 2b. 7.5YR4/4 褐色粘質シルト、粘性強く、締まりやや強い、1～3cm大の礫を含む。
 - 3a. 7.5YR4/4 褐色粘質シルト、粘性強く、締まりやや弱い、礫造成の層、5～20cm大の礫を多く含む。
 - 3b. 7.5YR4/6 褐色粘質シルト、締まりやや強い、3～30cm大の扁平な石を充填する。トレンチを横断する岩と同じ高さのように積み重ねられている。
 4. 10YR5/6 黄褐色粘質シルト、粘性やや強く、締まり弱い、10cmと大の礫が少量含まれる。
- III
 - 5a. 7.5YR5/4 にぶい黄褐色粘質シルト、粘性やや強く、締まりあり、5～15cm大の礫がまばらにみられる。人為的に切られた地山と思われる。
 - 5b. 7.5YR4/4 褐色粘質シルト、粘性やや強く、締まりあり、10cm大の礫がまばらにみられる。人為的に切られた地山と思われる。
 - 5c. 7.5YR3/4 暗褐色粘質シルト、粘性強く、締まりは弱い、1cm大の礫がまばらにみられる。人為的に切られた地山と思われる。
- IV
 - 6a. 10YR4/4 褐色粘土、粘性強く、締まり良い、地山赤土。
 - 6b. 10YR5/6 黄褐色粘土、粘性強く、締まり良い、地山赤土。

0 2m
(S=1/40)



第IV-21 図 TR25



掘削作業状況（東より）



掘抜き検出状況〔東より〕



青磁 表探



掘削後状況〔北西より〕



掘削後状況〔北西より〕



掘抜き検出状況



南壁①



南壁②



南壁③



南壁④(岩盤)



平面①(南より)



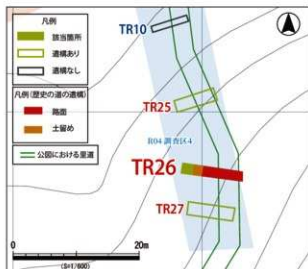
平面②(南より)



TR25 出土遺物

(7) TR26 (Cライン)

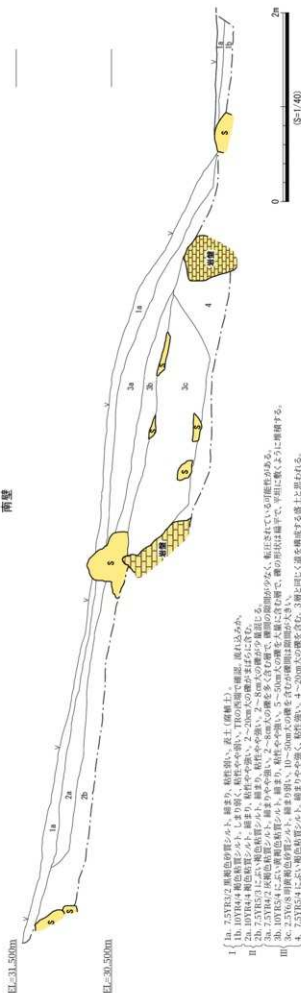
TR26は、TR25の南側約10mの地点に2m×8mで設定。礫層は概ね4枚に分けられ、地表面～-10cmは小ぶりの礫が主体となる。遺物は沖縄産無釉陶器片などが得られた。-10cm～-30cmレベルでは上層よりやや礫のサイズが大きくなり10～20cm大が主となる。この2層は試掘坑全面で確認することができる。-30cm～-50cmは人頭大の礫が主体となり、上記の礫層よりも密度が高く、礫層の中で最も固い層である。また、礫層の上面は岩盤及び地山平坦部分とほぼ同レベルである。4枚目の礫層は、岩盤が下がる部分を補うかのように礫が積まれている。道利用の時期差があるいは拡幅等が考えられる。



層相状況

第IV-22 図 TR26

南壁



- 1a. 2.5YR5/2 黒褐色砂質シルト、細まり、粘性やや強い、粘土（腐植土）
- 1b. 10YR4/4 褐色粘質シルト、細まり、粘性やや強い、2～20cm大の礫がまばらに含む
- 2a. 2.5YR5/2 黒褐色砂質シルト、細まり、粘性やや強い、2～20cm大の礫がまばらに含む
- 2b. 2.5YR5/2 黒褐色砂質シルト、細まり、粘性やや強い、2～20cm大の礫がまばらに含む
- 3a. 10YR5/4 黄色粘質シルト、細まり、粘性やや強い、5～50cm大の礫を大量に含む層で、平坦に敷くように堆積する。
- 3b. 2.5YR5/2 黒褐色砂質シルト、細まり、粘性やや強い、10～50cm大の礫を大量に含む層で、平坦に敷くように堆積する。
- 4. 2.5YR5/4 黄色粘質シルト、細まり、粘性やや強い、2～20cm大の礫を含む、3層と同じく道を構成する盛土と思われる。



表土掘削後状況〔東より〕



南壁状況〔北より〕



礫層断面①〔北より〕



礫層断面②〔北より〕



礫層断面③〔北より〕



礫層断面④〔北より〕



礫層断面〔南西より〕



TR 中央の岩盤〔西より〕



線形断面北壁



TR26 出土遺物

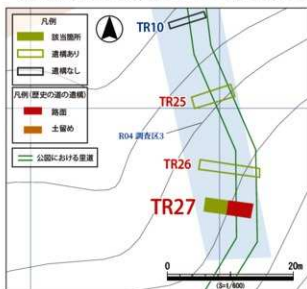
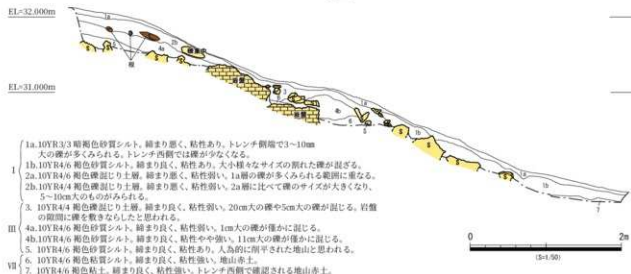


図版IV-20 TR26

(8) TR27 (Cライン)

TR27は、TR25・26と同様に現地表面から礫が散見される部分である。地籍上の里道を横断するように2m×7mの試掘坑を設けた。地形としては土手状の高まりが二段確認できる。それぞれの土手に対して平場がみられた。高所の平場で岩盤が平坦になる部分が確認でき、もう一方では礫層で平坦面が確認された。いずれも現地表面から-10cmくらいで5cm大の小礫が散見されるが、高所の平坦面の礫は僅かである。低所の平坦面は、岩盤の窪みに礫が入り平坦にする意図がみられた。二つの平坦面は使用される時期に差があるか、道の拡幅があった可能性も考えられる。

南壁



表土はぎ作業



0 5cm
(S=1/2)

TR27 出土遺物

第IV-23図 TR27



青磁出土状況（北より）



表土掘削後状況（北より）



礎散き検出状況（西より）



北壁



東壁



南壁



南壁

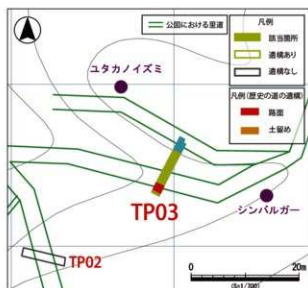


平均面（写真中央）

(9) TP03 (Aライン)

新城側はTPと名称を変更して試掘坑番号を設定した。TP03は、新城集落の古いウブガーと言い伝えが残るシンバルガー付近にあるアコウの根元あたりから里道の地籍を横断するように1.6m×12.5mで試掘坑を設定した。また、幾度かの調査を行ってもなお未だ発見に至っていないシンバルガーの確認調査も併せたため試掘坑を長めに設定した。地籍上里道があるとみられるルート上の岩盤が平らに削られていることが確認できた。また、水田の跡と見られる層があり、その下層からは海獣骨や石斧、先史土器が出土した。水田の層と考えられる17層は調査中も常時、水に覆われていた状況からも水田として利用されていた可能性があったと想定される。

試掘坑の北側では-80cmのところで、面をもった40cm程の石がいくつか確認できた。石列の面はそろっておらず、現位置は保っていないとみられる。地域の方々からの聞き取りを基に作成されたイメージ図では里道から1段下がったところに水田や水路があった様子が描かれており、戦前ないしは戦後、水路に使用していた石列の可能性も考えられる。

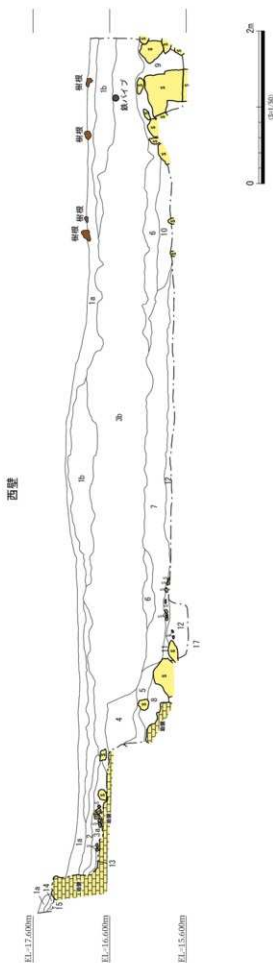


掘削作業状況



調査前

第IV-24図 TP03



1. 10YR5/3の暗褐色赤土、腐植土層。
2. 10YR5/3の暗褐色赤土。
3. 2.5YR4/3にぶい赤褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土。
4. 10YR4/4褐色。炭灰が見える造成土。
5. 10YR4/4褐色。造成土。
6. 10YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
7. 10YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
8. 10YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
9. 10YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
10. 10YR5/6にぶい黄褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
11. 10YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
12. 10YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
13. 10YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
14. 10YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
15. 2.5YR4/4にぶい赤褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
16. 2.5YR4/4にぶい赤褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
17. 10YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
18. 10YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。
19. 2.5YR4/4褐色。細まりやなく、粘性強い。炭灰や石灰質層が見える。造成土または腐植層。



掘削作業状況



西壁



石灰岩礫検出



小礫検出



南拡張調査前



南拡張後西壁



拡張後完掘状況



拡張後完掘状況

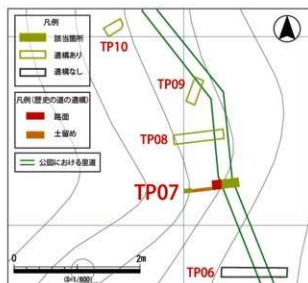


圖版IV-23 TP03 出土遺物



(10) TP07 (Aライン)

TP07はTP03から北東方向約120mの地点に1m×9mで試掘坑を設定した。当試掘坑は地表面に礫が露出しており、礫と里道の地籍を横断するように設定した。斜面際の平坦部に角が摩耗した5～10cmの石灰岩礫が敷かれている様子が確認できた。また、斜面部分には土留めと見られる10～40cmの摩耗がみられない石灰岩礫が詰められている。試掘坑と隣接して石積遺構が確認されており、斜面下側の石灰岩礫は道に関連する遺構あるいは集落に関連する石積の裏込めと見られる。



掘削作業状況

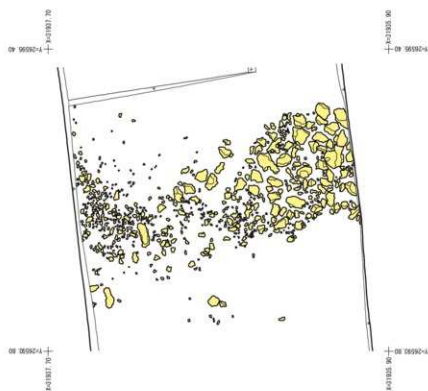


作業前

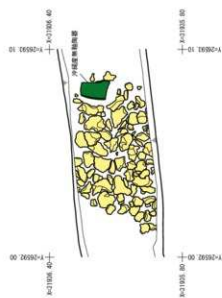
第IV-26 図 TP07



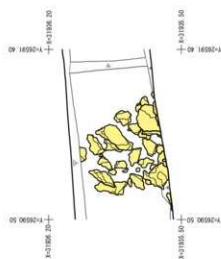
TP07 破散き遺構



TP07 土留め遺構



TP07 斜面部下基込め





掘削作業状況



南壁〔北より〕



南壁〔北より〕



南壁〔北より〕



土留め検出状況



遺構検出状況〔東より〕



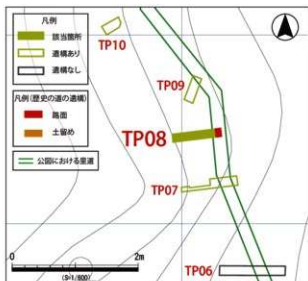
南壁〔北より〕



石敷き状況

(11) TP08 (Aライン)

TP08はTP07から北方約1mの地点に1.5m×8.2mで試掘坑を設定した。礫敷きと見られる遺構が確認できているが、遺構の両サイドが攪乱を受けており、道幅などは明確ではない。遺構平面で検出された礫はTP07の平面上の礫と同様に摩耗しており、5～10cm程のサイズが多いことから道に関連する遺構の一部と考えられる。

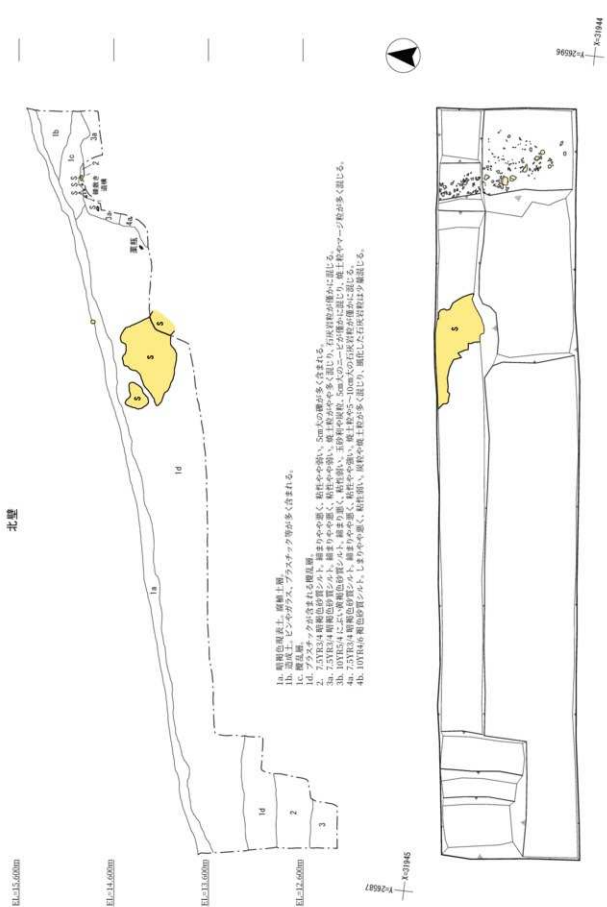


掘削作業状況



作業前

第IV-29 図 TP08





北壁〔南より〕



北壁〔南より〕



北壁〔南より〕



北壁〔南より〕



北壁〔南より〕



東壁付近 磚敷き検出状況



南壁〔北より〕



瓦葺状況



完掘状況

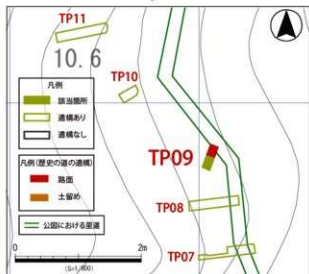
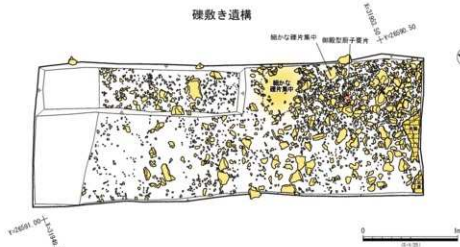
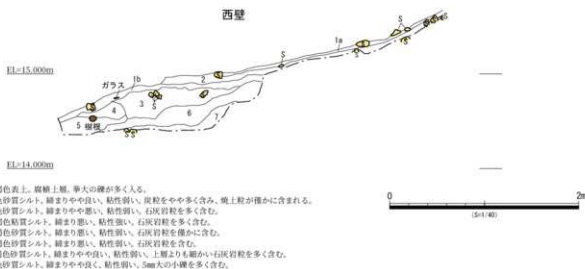


TP08 出土遺物

(12) TP09 (Aライン)

TP09はTP08から北方向約1mの地点に1.5×4.2mで試掘坑を設定した。両側を斜面に囲まれた平場を中心に里道の地籍が重なるように設定した。里道の地籍は試掘坑よりも北東側の斜面上に位置するが、岩盤が露出した急傾斜地のため、遺構が検出された位置とやや乖離があるとみられる。試掘坑周辺は目視で分かるほど地表面に石灰岩の礫が多くみられる。土の中に埋もれているものもあれば、地表面で動いている状態のものも見られる。表土を掘削すると全面に礫が敷き詰められている様子が確認された。

南西側の斜面は礫を多く含む層であるが、金属製品やビニールなど現代遺物を含む層となっているため、道跡もしくは土留め遺構が攪乱された層と考えられる。



調査前

第IV-31図 TP09



掘削作業状況



表土掘削後状況



西壁①(東より)



西壁②(東より)



西壁③(東より)



西壁④(東より)



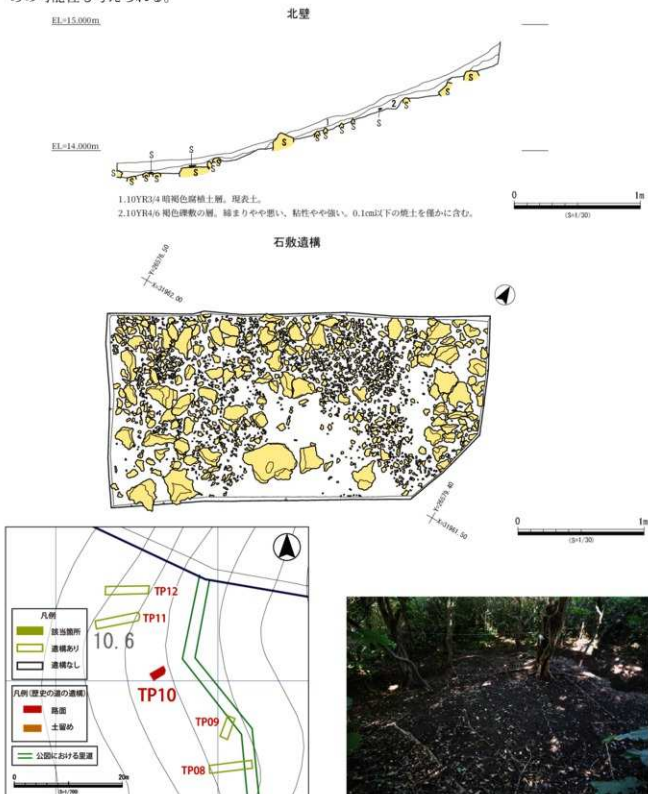
礎敷き検出状況〔南より〕



礎敷き検出状況〔北より〕

(13) TP10 (Aライン)

TP10はTP09から北西方向約1.5mの地点に1.6m×3mで試掘坑を設定した。TP10からTP12にかけては地籍上の里道を横断せずに試掘坑を設定した。里道を避けた理由としては、宿道をさらに北上した先にイシジャーと呼ばれる枯れ谷があり、地形から判断するにより緩やかな斜面地を通ったことが想定されることと昭和20年の航空写真で確認できる道筋と現況地形図を重ねるとやはり里道より僅かに西側へズレがあったためである。そのため試掘坑を設定する際はTP09と同様に斜面に挟まれた平場に設定した。表土を掘削すると全面に石灰岩礫が敷かれている様子が検出された。両方の斜面側にも礫の広がりがみられるが、石灰岩礫のサイズが中央から斜面側に向かってやや大きくなるため、土留めの可能性も考えられる。



第IV-32 図 TP10



掘削作業状況



北壁①(南より)



北壁②(南より)



北壁③(南より)



北壁④(南より)



線敷き検出状況①



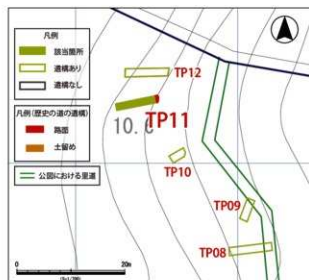
線敷き検出状況②



線敷き検出状況③

(14) TP11 (Aライン)

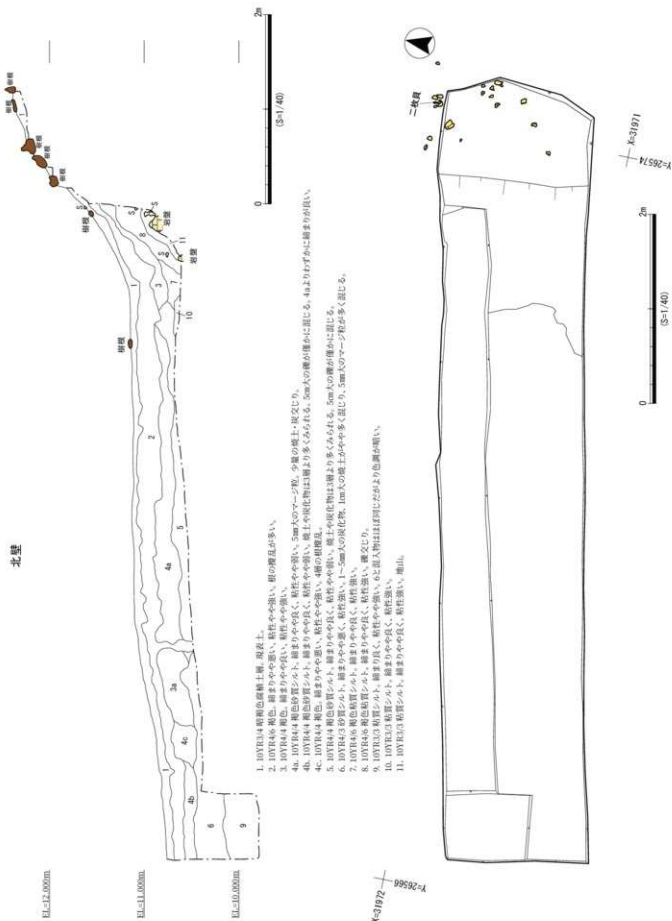
TP11はTP10から北西方向約1mの地点に1.6m×10mで試掘坑を設定した。表土の直下でTP10から続く道跡と考えられる摩耗した礫が散見された。当該試掘坑の東端はハンタモーと呼ばれる石灰岩小丘陵があり、丘陵頂部に生息するガジュマルの根が良く発達しており調査を難航させた。また、試掘坑のほとんどが大きな改変を受けていると考えられ、ハンタモーから伸びるガジュマルの根元まで調査行うことでより詳細な情報が得られると思われる。

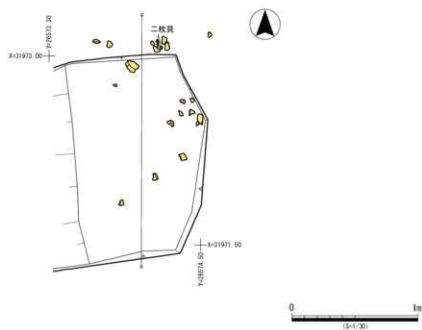


掘削作業状況



作業前





第IV-35 図 TP11 磯敷き遺構



0 5cm
(3-1/2)



北壁



0 5cm
(3-1/2)

図版IV-29 TP11 出土遺物



北壁①〔南より〕



北壁②〔南より〕



北壁③〔南より〕



北壁④〔南より〕



北壁⑤〔南より〕



北壁⑥〔南より〕



東壁〔西より〕

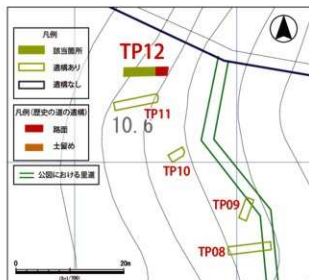


完掘状況〔南西より〕

(15) TP12 (Aライン)

TP12はTP11から北方向約0.5mの地点に1.5m×8mで試掘坑を設定した。当該試掘坑は西普天間住宅地区とキャンプ瑞慶覧の境界フェンス付近に位置し、調査地の北限である。境界フェンスを越えての発掘調査は未実施であるが、キャンプ瑞慶覧内に新城上殿遺跡などの遺跡が分布していることから、基地内にも宿道は残存していると考えられる。

道跡と見られる平場部分に摩耗した2cm大の礫がまともて出土しており、礫敷き遺構の一部とみられる。現状の地形では道幅が狭いため、後世に改変を受けたと考えられる。



掘削作業状況



作業前

EL+13.000m

EL+12.000m

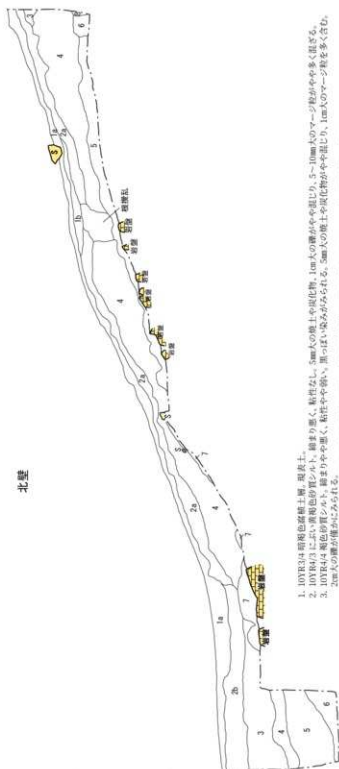
EL+11.000m

EL+10.000m

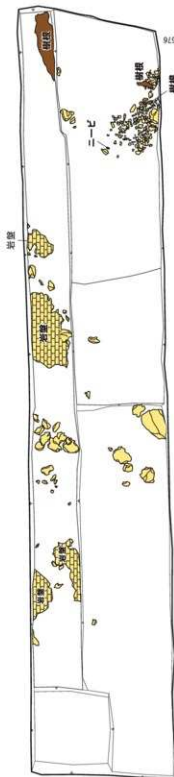
EL+9.000m

Kc1978
+9992-1
+26676

北壁



1. 10YR3.4 暗褐色凝結土層、硬粘土。結核が少なく、粘性なし。5mm大の礫土や砂化物、1cm大の礫がやや多く混入。5~10mm大のマーグ粒がやや多く混入。
2. 10YR4/1 灰色砂質シルト。結核がやや多く、粘性やや強い。5mm大の礫土や砂化物がやや多く混入。1cm大のマーグ粒を多く含む。
3. 10YR4/1 灰色砂質シルト。結核がやや多く、粘性やや強い。5mm大の礫土や砂化物がやや多く混入。1cm大のマーグ粒を多く含む。
4. 10YR4/1 灰色砂質シルト。結核がやや多く、粘性やや強い。5mm大の礫土や砂化物がやや多く混入。1cm大のマーグ粒を多く混入。
5. 10YR4/1 灰色砂質シルト。結核がやや多く、粘性やや強い。5mm大の礫土や砂化物がやや多く混入。1cm大のマーグ粒を多く混入。
6. 10YR3.4 暗褐色凝結土層。結核がやや多く、粘性やや強い。5mm大の礫土や砂化物がやや多く混入。1cm大のマーグ粒を多く混入。
7. 10YR3.4 暗褐色凝結土層。結核がやや多く、粘性やや強い。5mm大の礫土や砂化物がやや多く混入。1cm大のマーグ粒を多く混入。



Kc1978

+26676

+9992-1

道路

川

北壁

0

10m

(S=1/40)



第IV-38 図 TP12 機敷き遺構



北壁①〔南から〕



北壁②〔南から〕



北壁③〔南から〕



北壁④〔南から〕

図版IV-31 TP12



北壁③〔南から〕



北壁④〔南から〕



北壁⑤〔南から〕



東壁〔南から〕



西壁〔東から〕



埋戻き後出土状況〔東から〕



北壁〔南西から〕



完掘状況〔東から〕

第Ⅳ－５表 令和３年度 試掘坑調査成果一覧－１

連番	試掘坑	座標			標高 (m)	規格 (m)	掘削深度 (m)	岩盤 (m)	遺構	遺跡	ル ー ト	報 告
		杭	X	Y								
1	TR18	①	31613.008	26323.835	23.688	1.5×6	1.0	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第二遺跡	A	
		②	31608.307	26328.653	24.147							
		③	31607.283	26327.584	24.195							
		④	31611.974	26322.770	23.622							
2	TR18 拡張部	①	31612.663	26326.218	23.015	1×4	1.0	—	土留め遺構	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第二遺跡	A	●
		②	31616.269	26325.032	23.983							
		③	31612.330	26325.320	24.000							
		④	31615.939	26324.085	22.875							
3	TR19	①	31582.640	26300.420	23.868	2×7	1.4	—	礎敷遺構、 土留め遺構	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	●
		②	31577.472	26305.271	24.954							
		③	31576.135	26303.802	24.918							
		④	31582.225	26298.139	23.271							
4	TR20	①	31569.271	26286.677	22.519	2×5	1.4	—	土留め遺構	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	●
		②	31564.007	26291.330	24.433							
		③	31562.756	26290.102	24.391							
		④	31568.017	26285.126	22.501							
5	TR21	①	31566.041	26282.869	22.809	2×4.5	0.5	—	礎敷遺構、 土留め遺構	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	●
		②	31561.939	26286.433	—							
		③	31561.121	26285.287	—							
		④	31564.954	26281.949	22.672							
6	TR22	①	31558.275	26275.859	22.692	2×5	1.1	—	礎敷遺構、 土留め遺構	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	●
		②	31553.385	26280.479	23.756							
		③	31552.107	26279.283	23.526							
		④	31556.868	26274.477	22.468							
7	TR23	①	31534.562	26245.973	21.112	2×10	1.0	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第一遺跡	A	
		②	31544.558	26247.922	21.225							
		③	31534.597	26247.955	21.398							
		④	31544.476	26245.946	21.122							
8	TR24	①	31587.630	26378.708	27.645	1×10	0.5	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名西原遺跡	C	
		②	31589.603	26378.705	27.254							
		③	31587.493	26367.794	26.431							
		④	31589.464	26367.854	26.267							
9	TR25	①	31572.126	26381.551	29.617	2×7	1.0	1.0	礎敷遺構、 土留め遺構	喜友名・新城の宿道、 喜友名西原遺跡	C	●
		②	31574.023	26380.938	29.675							
		③	31570.169	26375.231	28.779							
		④	31572.027	26374.697	28.386							
10	TR26	①	31559.274	26385.434	31.425	2×8	0.9	0.7	礎敷遺構、 土留め遺構	喜友名・新城の宿道、 喜友名西原遺跡	C	●
		②	31560.732	26385.483	31.228							
		③	31560.618	26375.858	29.394							
		④	31562.088	26376.066	29.404							
11	TR27	①	31552.950	26384.013	32.123	2×7	0.5	0.3	礎敷遺構、 土留め遺構	喜友名・新城の宿道、 喜友名西原遺跡	C	●
		②	31554.988	26384.297	—							
		③	31554.012	26376.665	29.681							
		④	31556.003	26376.935	29.545							
12	TR28	①	31626.365	26335.899	—	1.5×8	1.5	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第二遺跡	A	
		②	31617.587	26339.475	—							
		③	31616.955	26338.134	—							
		④	31625.808	26324.481	—							
13	TR28 拡張部	①	31617.298	26338.937	23.327	0.5× 1.5	0.1	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第二遺跡	A	
		②	31615.545	26339.766	23.765							
		③	31615.159	26338.855	23.761							
		④	31616.955	26338.134	—							
14	TR29	①	31626.751	26349.977	—	1.5×7	1.0	—	—	喜友名・新城の宿道、 喜友名下原第二遺跡	A	
		②	31619.904	26351.889	23.732							
		③	31619.378	26350.507	—							
		④	31626.475	26348.802	—							

第Ⅳ－６表 令和３年度 試掘坑調査成果一覧-2

連番	試掘坑	座標			標高 (m)	規格 (m)	掘削深度 (m)	岩盤 (m)	遺構	遺跡	ル ー ト	報 告
		杭	X	Y								
15	TR30	①	31664.373	26417.499	20.302	2×9	1.6	—	—	喜友名山川原第七遺跡	A	
		②	31656.445	26419.120	20.490							
		③	31655.854	26417.280	20.972							
		④	31663.642	26415.726	19.926							
16	TR31	①	31655.604	26407.554	20.149	1×12	1.6	—	—	喜友名山川原第七遺跡	A	
		②	31645.121	26413.194	22.274							
		③	31644.131	26411.498	22.157							
		④	31654.907	26405.656	20.375							
17	TR32	①	31650.645	26394.452	20.209	1×8	1.2	—	—	喜友名山川原第七遺跡	A	
		②	31642.773	26393.815	21.443							
		③	31642.914	26391.888	—							
		④	31650.887	26392.517	19.939							
18	TR33 ※欠番	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		②	—	—	—							
		③	—	—	—							
		④	—	—	—							
19	TR34	①	31690.308	26315.486	24.075	2×6	0.5	—	—	喜友名下原第二遺跡	A	
		②	31601.598	26316.237	24.098							
		③	31604.188	26310.888	22.848							
		④	31602.827	26310.335	22.526							
20	TR35 ※欠番	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		②	—	—	—							
		③	—	—	—							
		④	—	—	—							
21	TR36 ※欠番	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		②	—	—	—							
		③	—	—	—							
		④	—	—	—							
22	TP01	①	31795.081	26529.901	20.040	1.5× 4.2	0.7	—	—	喜友名・新城の宿道	A	
		②	31791.726	26532.845	20.550							
		③	31791.118	26531.376	—							
		④	31793.953	26528.842	—							
23	TP02	①	31808.245	26539.022	20.380	1.6×8	0.6	0.6	—	喜友名・新城の宿道	A	
		②	31806.731	26538.836	—							
		③	31808.595	26530.959	—							
		④	31810.092	26531.292	19.980							
24	TP03	①	31830.162	26561.054	—	1.6× 12.5	1.5	1.0	道跡?、水田跡	喜友名・新城の宿道	A	●
		②	31829.570	26560.812	—							
		③	31829.275	26561.244	—							
		④	31819.694	26556.337	—							
		⑤	31820.381	26555.002	17.540							
		⑥	31830.575	26560.228	16.840							
25	TP04	①	31860.335	26588.044	19.940	1.5×8	0.2	—	—	喜友名・新城の宿道	A	
		②	31854.983	26593.912	20.460							
		③	31853.904	26592.934	—							
		④	31859.243	26587.047	—							
26	TP05	①	31874.558	26599.509	20.360	1.5×8	0.2	—	—	喜友名・新城の宿道	A	
		②	31873.072	26599.664	—							
		③	31872.554	26591.626	—							
		④	31874.058	26591.523	19.940							
27	TP06	①	31923.610	26605.486	18.680	1.5× 10.4	1.2	1.0	—	喜友名・新城の宿道	A	
		②	31922.154	26605.425	—							
		③	31922.170	26594.994	18.180							
		④	31923.678	26595.074	17.960							

第Ⅳ－７表 令和３年度 試掘坑調査成果一覧-3

連番	試掘坑	座標			標高 (m)	規格 (m)	掘削深度 (m)	岩盤 (m)	遺構	遺跡	ルート	報告
		杭	X	Y								
28	TP07	①	31937.931	26597.741	—	1×9	1.5	1.2	疎散遺構、 土留め遺構	喜友名・新城の宿道、 新城上殿遺跡	A	●
		②	31936.470	26597.964	16.320							
		③	31935.397	26589.053	14.120							
		④	31936.110	26589.003	14.180							
		⑤	31936.256	26590.266	—							
		⑥	31936.048	26590.321	—							
		⑦	31936.452	26593.578	—							
29	TP08	⑧	31937.443	26593.509	—	1.5×8.2	1.6	—	疎散遺構	喜友名・新城の宿道、 新城上殿遺跡	A	●
		①	31945.589	26595.269	15.520							
		②	31944.131	26595.421	—							
		③	31943.189	26587.533	14.000							
		④	31944.646	26587.427	13.690							
30	TP09	①	31953.317	26592.195	—	1.5×4.2	0.6	—	疎散遺構	喜友名・新城の宿道 新城上殿遺跡	A	●
		②	31949.441	26590.783	—							
		③	31950.054	26589.433	14.520							
		④	31953.854	26590.852	15.680							
31	TP10	①	31963.114	26578.996	14.860	1.6×3	0.2	—	疎散遺構	喜友名・新城の宿道、 新城上殿遺跡	A	●
		②	31962.255	26579.396	—							
		③	31961.541	26579.177	—							
		④	31960.301	26577.161	—							
		⑤	31961.616	26576.363	13.900							
32	TP11	①	31973.009	26574.306	12.400	1.6×10	1.0	0.6	疎散遺構？	喜友名・新城の宿道、 新城上殿遺跡	A	●
		②	31972.494	26574.556	—							
		③	31971.816	26574.502	—							
		④	31971.440	26574.338	—							
		⑤	31969.911	26566.599	10.820							
		⑥	31971.380	26566.340	10.780							
33	TP12	①	31977.899	26576.331	12.720	1.5×8	1.2	0.6	疎散遺構	喜友名・新城の宿道、 新城上殿遺跡	A	●
		②	31977.690	26576.364	—							
		③	31976.457	26576.101	12.920							
		④	31976.252	26568.203	12.920							
		⑤	31977.766	26568.27	10.440							

※ 1 座標値は日本測地系で、北側杭から時計回りに設定
 ※ 2 「掘削深度」は現地表面からの最大値で「岩盤」検出値
 ※ 3 「報告」の「●」は本書に掲載している試掘坑

第Ⅳ-8表 令和3年度調査 遺物集計表-1

種別	1978		1979		1980		1981		1982		1983		1984		1985		1986		1987		1988		1989		1990		1991		1992		1993		1994		1995		1996		1997		1998		1999		2000		2001		2002		2003		2004		2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015		2016		2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		2024		2025		2026		2027		2028		2029		2030		2031		2032		2033		2034		2035		2036		2037		2038		2039		2040		2041		2042		2043		2044		2045		2046		2047		2048		2049		2050		2051		2052		2053		2054		2055		2056		2057		2058		2059		2060		2061		2062		2063		2064		2065		2066		2067		2068		2069		2070		2071		2072		2073		2074		2075		2076		2077		2078		2079		2080		2081		2082		2083		2084		2085		2086		2087		2088		2089		2090		2091		2092		2093		2094		2095		2096		2097		2098		2099		2100	
	種別	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100																																																																																																																										
1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100																																																																																																																												
1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100																																																																																																																												
1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100																																																																																																																												
1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100																																																																																																																												
1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100																																																																																																																												
1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100																																																																																																																												
1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100																																																																																																																												
1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100																																																																																																																												
1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075																																																																																																																																																					

第Ⅳ-9表 令和3年度調査 遺物集計表-2

1963		1964		1965		1966		1967		1968		1969		1970		1971		1972		1973		1974		1975		1976		1977		1978		1979		1980		1981		1982		1983		1984		1985		1986		1987		1988		1989		1990		1991		1992		1993		1994		1995		1996		1997		1998		1999		2000		2001		2002		2003		2004		2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015		2016		2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		2024		2025		2026		2027		2028		2029		2030		2031		2032		2033		2034		2035		2036		2037		2038		2039		2040		2041		2042		2043		2044		2045		2046		2047		2048		2049		2050		2051		2052		2053		2054		2055		2056		2057		2058		2059		2060		2061		2062		2063		2064		2065		2066		2067		2068		2069		2070		2071		2072		2073		2074		2075		2076		2077		2078		2079		2080		2081		2082		2083		2084		2085		2086		2087		2088		2089		2090		2091		2092		2093		2094		2095		2096		2097		2098		2099		2100		2101		2102		2103		2104		2105		2106		2107		2108		2109		2110		2111		2112		2113		2114		2115		2116		2117		2118		2119		2120		2121		2122		2123		2124		2125		2126		2127		2128		2129		2130		2131		2132		2133		2134		2135		2136		2137		2138		2139		2140		2141		2142		2143		2144		2145		2146		2147		2148		2149		2150		2151		2152		2153		2154		2155		2156		2157		2158		2159		2160		2161		2162		2163		2164		2165		2166		2167		2168		2169		2170		2171		2172		2173		2174		2175		2176		2177		2178		2179		2180		2181		2182		2183		2184		2185		2186		2187		2188		2189		2190		2191		2192		2193		2194		2195		2196		2197		2198		2199		2200		2201		2202		2203		2204		2205		2206		2207		2208		2209		2210		2211		2212		2213		2214		2215		2216		2217		2218		2219		2220		2221		2222		2223		2224		2225		2226		2227		2228		2229		2230		2231		2232		2233		2234		2235		2236		2237		2238		2239		2240		2241		2242		2243		2244		2245		2246		2247		2248		2249		2250		2251		2252		2253		2254		2255		2256		2257		2258		2259		2260		2261		2262		2263		2264		2265		2266		2267		2268		2269		2270		2271		2272		2273		2274		2275		2276		2277		2278		2279		2280		2281		2282		2283		2284		2285		2286		2287		2288		2289		2290		2291		2292		2293		2294		2295		2296		2297		2298		2299		2300		2301		2302		2303		2304		2305		2306		2307		2308		2309		2310		2311		2312		2313		2314		2315		2316		2317		2318		2319		2320		2321		2322		2323		2324		2325		2326		2327		2328		2329		2330		2331		2332		2333		2334		2335		2336		2337		2338		2339		2340		2341		2342		2343		2344		2345		2346		2347		2348		2349		2350		2351		2352		2353		2354		2355		2356		2357		2358		2359		2360		2361		2362		2363		2364		2365		2366		2367		2368		2369		2370		2371		2372		2373		2374		2375		2376		2377		2378		2379		2380		2381		2382		2383		2384		2385		2386		2387		2388		2389		2390		2391		2392		2393		2394		2395		2396		2397		2398		2399		2400		2401		2402		2403		2404		2405		2406		2407		2408		2409		2410		2411		2412		2413		2414		2415		2416		2417		2418		2419		2420		2421		2422		2423		2424		2425		2426		2427		2428		2429		2430		2431		2432		2433		2434		2435		2436		2437		2438		2439		2440		2441		2442		2443		2444		2445		2446		2447		2448		2449		2450		2451		2452		2453		2454		2455		2456		2457		2458		2459		2460		2461		2462		2463		2464		2465		2466		2467		2468		2469		2470		2471		2472		2473		2474		2475		2476		2477		2478		2479		2480		2481		2482		2483		2484		2485		2486		2487		2488		2489		2490		2491		2492		2493		2494		2495		2496		2497		2498		2499		2500		2501		2502		2503		2504		2505		2506		2507		2508		2509		2510		2511		2512		2513		2514		2515		2516		2517		2518		2519		2520		2521		2522		2523		2524		2525		2526		2527		2528		2529		2530		2531		2532		2533		2534		2535		2536		2537		2538		2539		2540		2541		2542		2543		2544		2545		2546		2547		2548		2549		2550		2551		2552		2553		2554		2555		2556		2557		2558		2559		2560		2561		2562		2563		2564		2565		2566		2567		2568		2569		2570		2571		2572		2573		2574		2575		2576		2577		2578		2579		2580		2581		2582		2583		2584		2585		2586		2587		2588		2589		2590		2591		2592		2593		2594		2595		2596		2597		2598		2599		2600		2601		2602		2603		2604		2605		2606		2607		2608		2609		2610		2611		2612		2613		2614		2615		2616		2617		2618		2619		2620		2621		2622		2623		2624		2625		2626		2627		2628		2629		2630		2631		2632		2633		2634		2635		2636		2637		2638		2639		2640		2641		2642		2643		2644		2645		2646		2647		2648		2649		2650		2651		2652		2653		2654		2655		2656		2657		2658		2659		2660		2661		2662		2663		2664		2665		2666		2667		2668		2669		2670		2671		2672		2673		2674		2675		2676		2677		2678		2679		2680		2681		2682		2683		2684		2685		2686		2687		2688		2689		2690		2691		2692		2693		2694		2695		2696		2697		2698		2699		2700		2701		2702		2703		2704		2705		2706		2707		2708		2709		2710		2711		2712		2713		2714		2715		2716		2717		2718		2719		2720		2721		2722		2723		2724		2725		2726		2727		2728		2729		2730		2731		2732		2733		2734		2735		2736		2737		2738		2739		2740		2741		2742		2743		2744		2745		2746		2747		2748		2749		2750		2751		2752		2753		2754		2755		2756		2757		2758		2759		2760		2761		2762		2763		2764		2765		2766		2767		2768		2769		2770		2771		2772		2773		2774		2775		2776		2777		2778		2779		2780		2781		2782		2783		2784		2785		2786		2787		2788		2789		2790		2791		2792		2793		2794		2795		2796		2797		2798		2799		2800		2801		2802		2803		2804		2805		2806		2807		2808		2809		2810		2811		2812		2813		2814		2815		2816		2817		2818		2819		2820		2821		2822		2823		2824		2825		2826		2827		2828		2829		2830		2831		2832		2833		2834		2835		2836		2837		2838		2839		2840		2841		2842		2843		2844		2845		2846		2847		2848		2849		2850		2851		2852		2853		2854		2855		2856		2857		2858		2859		2860		2861		2862		2863		2864		2865		2866		2867		2868		2869		2870		2871		2872		2873		2874		2875		2876		2877		2878		2879		2880		2881		2882		2883		2884		2885		2886		2887		2888		2889		2890		2891		2892		2893		2894		2895		2896		2897		2898		2899		2900		2901		2902		2903		2904		2905		2906		2907		2908		2909		2910		2911		2912		2913		2914		2915		2916		2917		2918		2919		2920		2921		2922		2923		2924		2925		2926		2927		2928		2929		2930		2931		2932		2933		2934		2935		2936		2937		2938		2939		2940		2941		2942		2943		2944		2945		2946		2947		2948		2949		2950		2951		2952		2953		2954		2955		2956		2957		2958		2959		2960		2961		2962		2963		2964		2965		2966		2967		2968		2969		2970		2971		2972		2973		2974		2975		2976		2977		2978		2979		2980		2981		2982		2983		2984		2985		2986		2987		2988		2989		2990		2991		2992		2993		299	
------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	-----	--

第IV-10表 令和3年度調査 遺物集計表-3

遺物の分類・組織・部位	トレンチ名	TP01	TP02	TP03	TP04	TP05	TP06	TP07	TP08	TP09	TP10	TP11	TP12	合計
		遺構 表土	遺構 表土	客土 表土	客土 表土	客土 表土	客土 表土	客土 表土	客土 表土	客土 表土	客土 表土	客土 表土	客土 表土	
中 国 産	土器													
	不明													
	カムイヤキ													
	不明													
	白磁													
	青磁													
	不明													
	青磁													
	不明													
	青磁													
沖 縄 産	土器													
	不明													
	カムイヤキ													
	不明													
	白磁													
	青磁													
	不明													
	青磁													
	不明													
	青磁													
沖 縄 産	土器													
	不明													
	カムイヤキ													
	不明													
	白磁													
	青磁													
	不明													
	青磁													
	不明													
	青磁													

第Ⅳ-11表 令和3年度調査 遺物集計表-4

遺物の分類・部位・部位	トレンチ名	TP01	TP02	TP03	TP06	TP07	TP08	TP09	TP11	TP12	合計
		遺構 表土 上	遺構 表土 上	表層 表土 上	表層 表土 上	表層 表土 上	表層 表土 上	表層 表土 上	表層 表土 上	表層 表土 上	
機具類	口縁										1
	胴部										1
	底面										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
土器類	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
陶器類	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
ガラス製品	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
鉄製品	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
銅製品	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
石製品	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
骨角製品	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
その他	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
計	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1
	口縁										1

TR18 (Aライン)



TR29 (Aライン)



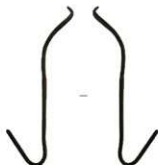
TR30 (Aライン)



表探



TP01 (Aライン)



TR24 (Cライン)



TR31 (Aライン)

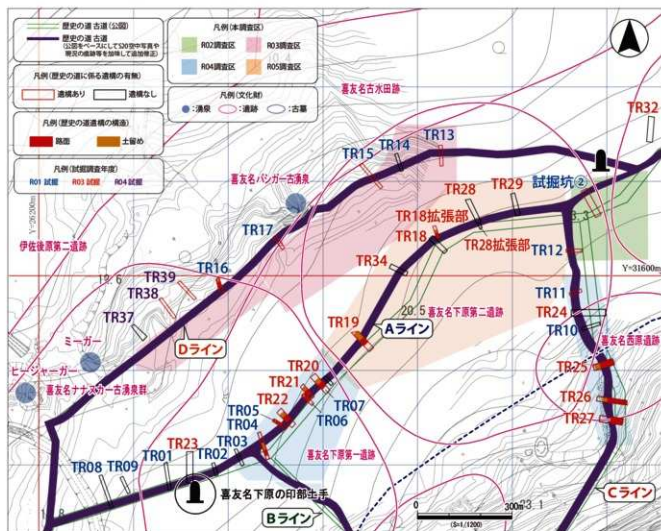


第3節 令和4年度の調査

1. はじめに

令和4年度はDラインの遺構を確認するために試掘坑を設定した。前年度(令和3年度)にDラインに沿って計画されている幹線道路(西普天間線)に伴う記録保存調査が実施されているが、その調査ではA～Cラインで確認されている礎敷遺構は見つかっていない。想定されるケースとして、当初予想していたDラインのルートがもっと北より(湧水側)を通っていた可能性があると考えた。そこで、現況地形の再確認をおこない、道が残っている可能性が高い西側(※R1年度調査でTR16より土留めを確認)にTR37、TR38、TR39の3つの試掘坑を設定した調査をおこなった。

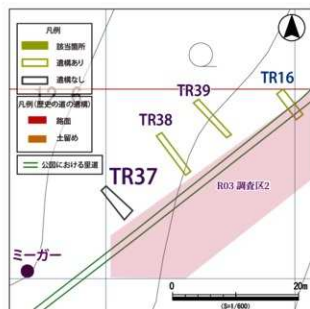
調査の結果、3つの試掘坑ともに遺構はほとんど確認されなかったが、人為的に構築された土手状地形などが確認されている。



第IV-39図 令和2～4年度調査位置図

(1) TR37 (Dライン)

ミーガーより北東側約18mの位置に1m×6mで設定。現況地形を確認したところ、緩やかな斜面となっている場所で、平坦部分が道路面で斜面部が土留めではないかと想定された。調査の結果、地山(鳥尻マージ層)より上部は改変されており、道の遺構や旧地形は確認できなかった。



作業前





作業状況



掘削状況



ビット検出状況



地山確認状況〔西壁〕



東壁①〔西より〕



東壁②〔西より〕



南壁①〔北より〕



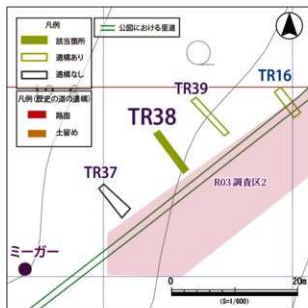
南壁②〔北より〕

(2) TR38 (Dライン)

ミーガーから北東側約30mの位置に1m×8mで試掘坑を設定した。当該地もTR38と同様に平坦部から緩やかな斜面を有しており、調査の結果、路面と思われる平坦部と北側緩斜面に道の法面と想定される旧地形が確認された。

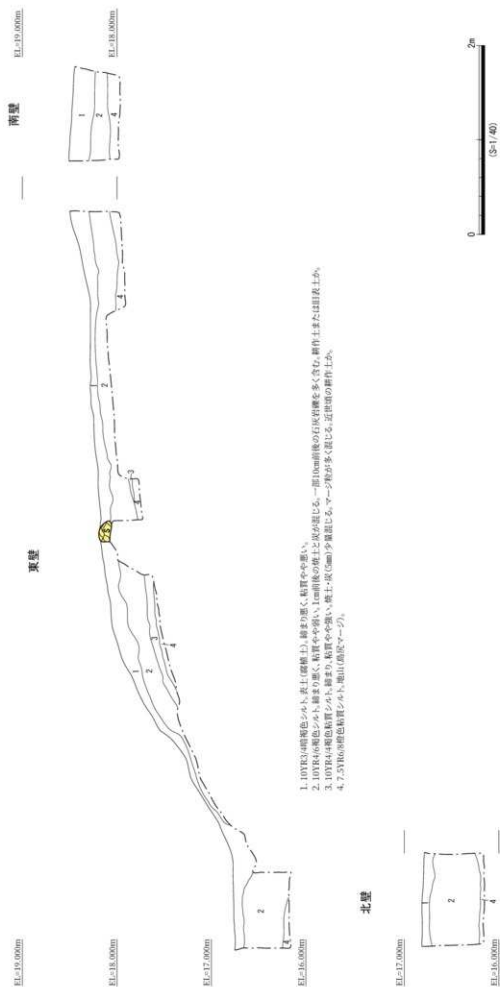


作業風景



縦断

第IV-41 図 TR38





南壁〔北より〕



完壁状況平面



東壁①〔西より〕



東壁②〔西より〕



東壁③〔西より〕



東壁④〔西より〕



縦断検出状況



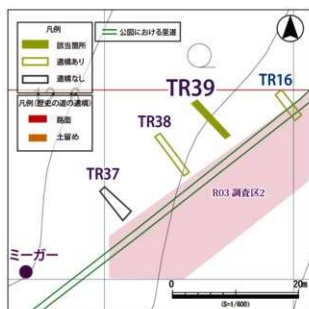
土留めか？

(2) TR39 (Dライン)

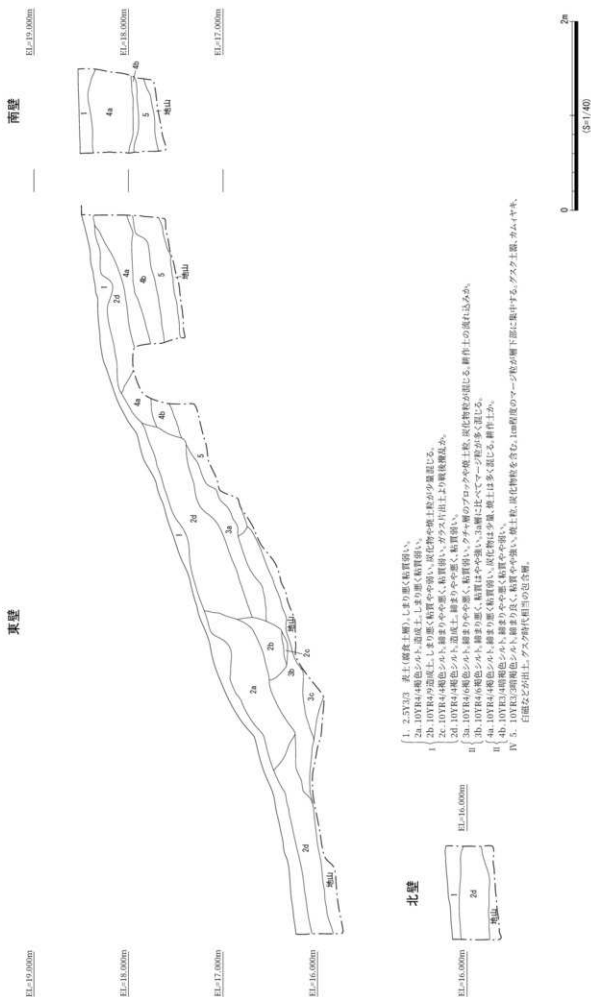
TR38の北東側約8mの地点に位置する。当該地も平坦部から北側の緩斜面を有する地形で、想定ルートを横断するように1m×8mの試掘坑を設定した。調査の結果、上層及び斜面部には戦後の攪乱や造成土が堆積しているものの、試掘坑南側では僅かに礫敷と旧地形が確認された。さらに近世～近代層の下からグスク時代に相当する暗褐色の粘質シルト層が確認されている。



作業風景



平面（東より）





東壁①〔西より〕



東壁②〔西より〕



東壁③〔西より〕



東壁④〔西より〕



東壁⑤〔西より〕



東壁⑥〔西より〕



平面①〔東より〕



平面②〔東より〕

第4節 総括

1. 中頭方西海道の概要

中頭方西海道とは、琉球王朝時代に首里城を起点として整備された5つの宿道の1つである。琉球王府がこれらの道を整備した目的は、王府からの諸令達や地方からの貢租を運ぶために各間切の番所を繋いだとされている。当該道跡は大山（謝名具志川村）付近で海岸側と内陸側に分岐しており、沖縄県が昭和60年に刊行した『沖縄県歴史の道調査報告書—国頭・中頭方西海道（Ⅰ）・弁ヶ嶽参詣道—（以下、県調査報告書という）』では内陸側が古い道筋と推測している。なお、1820年に建立された市指定史跡である『伊佐浜「新造佐阿天橋碑」』には中頭方西海道の整備に関して山手側（内陸側）の道が険しいため、海側の平坦な道を通れるように橋を架けたとする記述があり、西普天間住宅地区を通る道筋はこの山手側（内陸側）の古い（1820年以前）正路であると考えられる。

これらの道筋は、18世紀に作製された「琉球国惣絵図（間切集成図）」や「琉球国図（薩摩藩調整琉球図）」等の古地図にみることができる。古地図から読み取れる各集落や地形等の情報を参考に、昭和50年頃の航空写真を重ね合わせて、近世における宿道の道筋を考察した。



第IV-45図 琉球国惣絵図（沖縄県立博物館・美術館所蔵）



第IV-46図 琉球国図（沖縄県立図書館所蔵）

また、宿道の規格に関する史料はわずかだが、仲吉朝助「琉球の地割制度」『史学雑誌』には、宿道等の規格が記されており、以下に抜粋する。

一、道路の幅員は藩制時代の制限に抵触するを以て左の通り定め、之がために潰地となるべき分は地割替の如何に拘はらず除き置くこと。

宿道は幅八尺以上 双方に幅六尺宛の余地を設く。

脇道は五尺以上。

原道は三尺以上。

（明治三十二年五月、最終の地割に付き、真和志間切識名村地人決議書）

（中略）土地区画整理事業の際の、最終地割に関するものであるが、その際保全の対象とされた各種の幅員は、いずれも首里王府時代に定められたものであった。事実、道光十一年（1831）「久米具志川間切公事帳」（琉球大学図書館蔵）には、（中略）原道に関する指示はないが、宿道と脇道の幅員については前掲の史料と同じく、それぞれ八尺および五尺となっている。宿道はいうまでもなく首里と間切を結ぶ主要街道、脇道は宿道から派生する脇往還、原道は里道と考えることができよう。（後略）

このことから、近代における宿道の構造は、幅八尺（約2.4m）以上、脇道は五尺（約1.5m）以上、原道は三尺（約0.9m）以上であることが推測される。

2. 発掘調査の概要

宜野湾市における中頭方西海道の道筋は、これまでに沖縄県や宜野湾市が調査した結果から、浦添市牧港から宇地泊へ入り、大山を通り北谷町へと続くとして整理されている。さらに、市指定史跡である伊佐浜「新造佐阿天橋碑」の碑文には山手側の難渋な道から海岸側の平坦な道に公道を移設したとする記載があり、大山付近で山側と海側の二手に分岐することが明らかとなっている。

今回西普天間住宅地区で発見された道跡は中頭方西海道の一部であり、1820年より以前は宿道として利用されていた山側の道であったと考えられる。

また、西普天間住宅地区内の道跡は、地域住民からの聞き取り調査や発掘調査によって4つの道筋があることが判明した。4つの道筋は、古地図に示されている宿道（中頭方西海道）であるAライン、AラインとCラインを結ぶBライン（グスクンダ）、喜友名集落から喜友名グスク遺跡を通りAラインへ続くCライン（グスクンダ）、Aラインからやや北へ分岐し、各湧水に繋がるDライン（カーミチ）である。

道の規格については、県調査報告の中で、宿道は幅八尺（約2.4m）、脇道は五尺（約1.5m）、原道は三尺（約0.9m）と理解されている。

そのため、Aラインは宿道としているがその他の道筋については、Bライン、Cラインはともに2mほどの幅員があることから脇道（約1.5m）に相当するものと思われる。Dラインは幅員がわかる遺構等が確認されていないため判断しづらいが土道である可能性が考えられる。

上述した中頭方西海道（B～Dを含む）とは別に、喜友名集落から喜友名泉に至る道筋も確認されている。喜友名泉へ至る石畳道は地域から「カーピラ」と呼ばれる道がある。西普天間地区で確認された中頭方西海道はほとんどが礫道であるが、こちらは石畳道であり工法に違いがみられる。工法の違いについては、喜友名泉の発掘調査成果を参考にすると喜友名泉は石積み技法から想定される年代は16世紀～19世紀に該当すると思われるが、詳細な時期を特定できていない。石畳道は18世紀頃に整備されたと推察され、石畳を整備した理由は喜友名泉が地域にとって重要であったことや急傾斜地という地形的な条件が要因だと思われる。

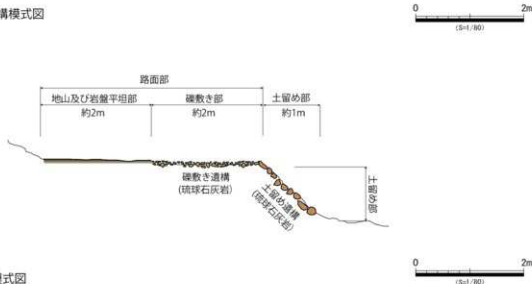
西普天間住宅地区内の中頭方西海道の発掘調査成果について、以下のように整理する。

- ①遺跡の時代については、出土した遺物から近頃には整備されたと考えられる。
- ②道跡の構造は、道の造成層と考えられる路面部（礫敷遺構）と路面部より標高の低いところで土を抑える目的と考えられる土留め部（土留め遺構）が確認された。路面部は幅約2mで、地山面を平坦に削平し、その上層に土または扁平な礫を敷き詰めて造成したことが判明した。また、急傾斜地や道の合流地点等の要所で幅員が広がる傾向が見て取れる。土留め部は幅約1mの礫層であった。礫層の厚みは地形（路面と路肩の高低差）によって差異が見られるが、礫を充填する点は共通する。4つの道筋のうち、A、B、Cラインは礫敷遺構と土留め遺構が確認されたが、Dラインでは礫敷遺構が確認されず土留め遺構がわずかに確認された。これらの情報を基に遺構構造の模式図を作成した（第IV-47図）。
- ③Aライン（宿道）における道の幅員は、おおむね史料のとおり八尺（約2.4m）である。ただし、道幅が2.4mではない場所も確認された。伊佐浜「新造佐阿天橋碑」の碑文にあるように1820年以降は宿道が海岸側に移動し、当該道跡が宿道としての役割を終え、集落の生活道として利用されるようになっていくとともに、時代のニーズに合わせて拡張や縮小等の変化があったと推測される。

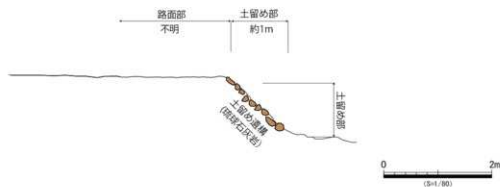
Aライン遺構模式図



B・Cライン遺構模式図



Dライン遺構模式図

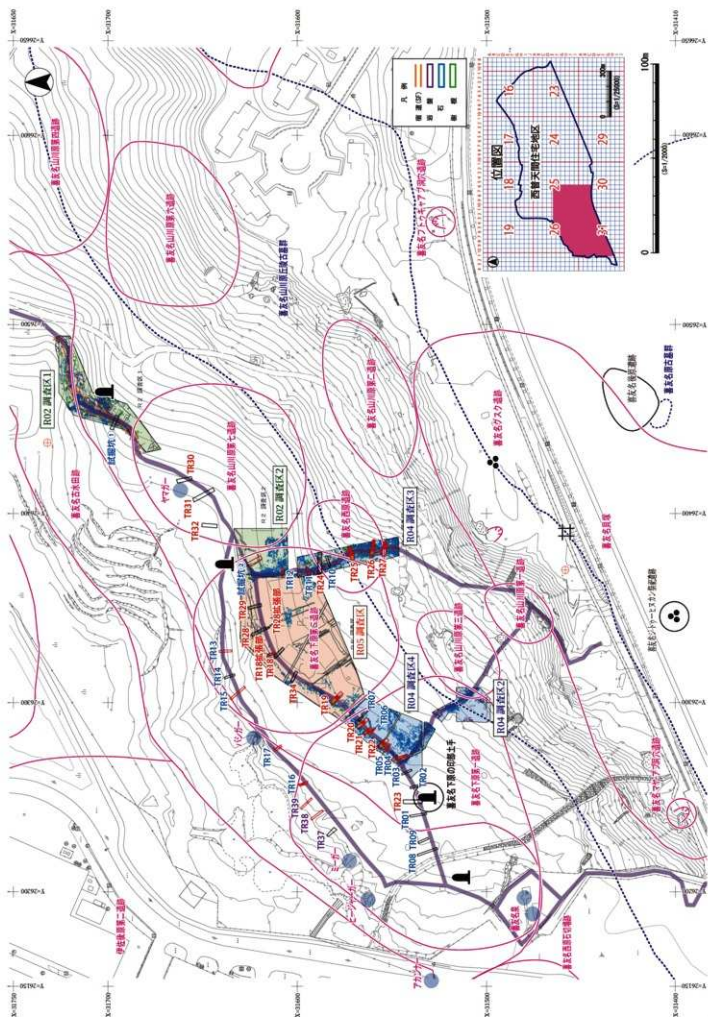


第IV-47図 遺構模式図

3. 今後の課題

今後の展望と課題としては、宿道である中頭方西海道（Aライン）から分岐するグスクンダ（B、Cライン）、湧泉を繋ぐカーミチ（Dライン）の位置づけと湧泉や旧集落、拝所等といった周辺遺跡との関係性を明らかにすることで地域の特性を理解していく必要がある。さらに、西普天間住宅地区で確認された道の構造を基礎資料とし、市内に所在する中頭方西海道の予備調査を実施し全容を把握すべきである。

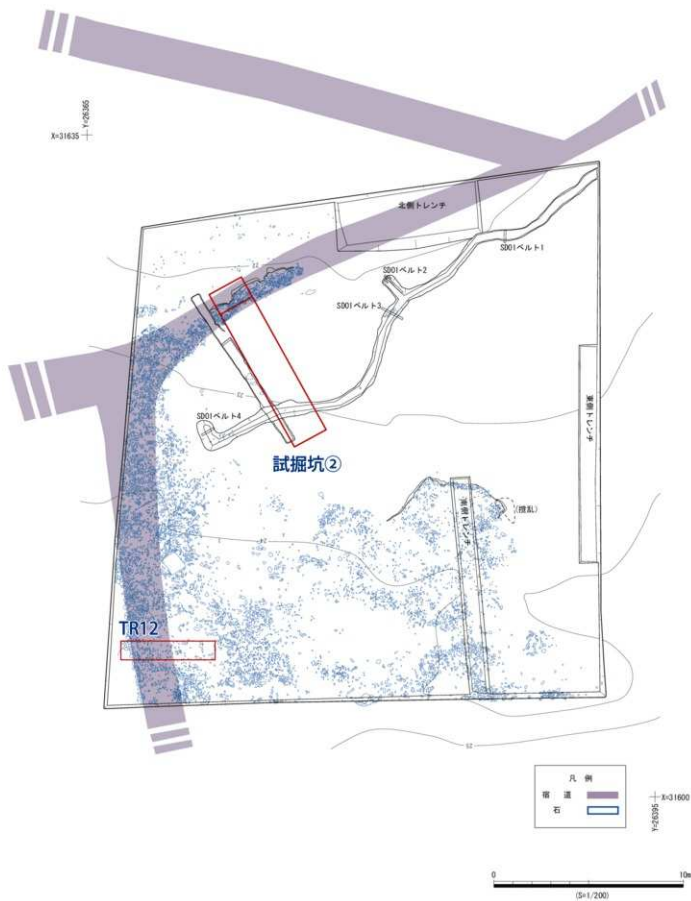
また、近世に宜野湾間切で整備された宿道は、当該道跡とは別に普天満参詣道や野嵩スティバナビラ石畳に代表される番所道、中頭方西海道の分岐路と考えられる大山クンジャンブシ古道が存在する。特に普天満参詣道、番所道は近世に新設された宜野湾間切に、王府が整備した主要な街道である。県内に残る街道との比較検討を行い、本市における歴史の道の特徴あるいは道周辺の文化財の在り方や環境の特徴を把握し、文化財を地域の教材や観光資源として活かされることが望まれる。



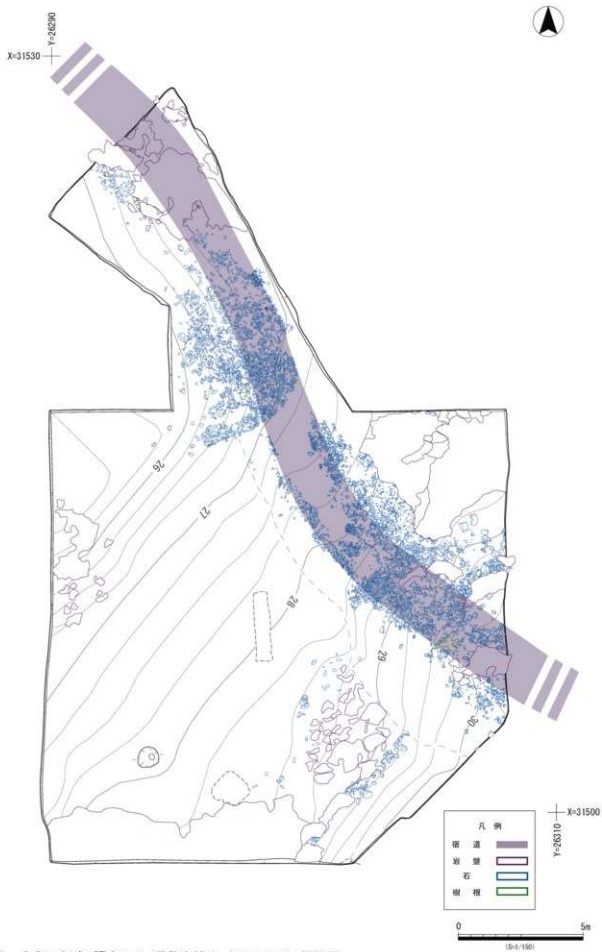
第IV-48 図 令和2～5年度記録保存調査位置図



第IV-49図 令和2年度調査区I 礫敷き検出 (Aライン) 平面図



第IV-50図 令和2年度 調査区2 裸敷き検出 (A・Cライン) 平面図



第IV-51図 令和4年度 調査区2 磯敷き検出（Bライン）平面図

X=31800
Y=25350



TR11

TR24

TR10

TR25

TR26

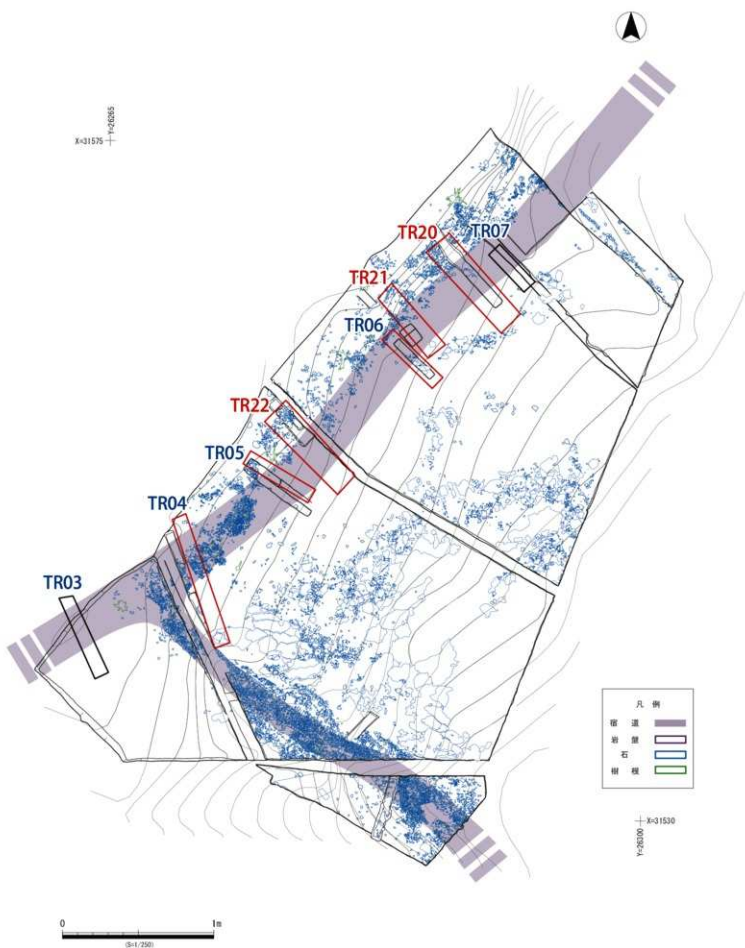
TR27



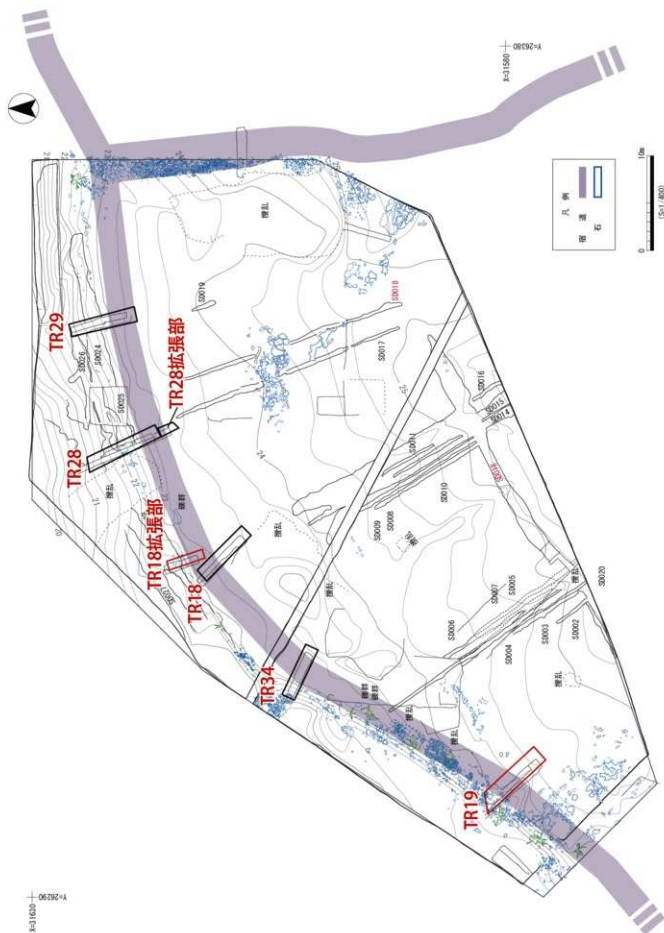
X=31550
Y=25390



第IV-52図 令和4年度 調査区3 礫敷き検出 (Cライン) 平面図



第IV-53図 令和4年度 調査区4 機敷き検出 (A・Bライン) 平面図



第IV-54図 令和5年度 調査区 裸敷き検出（A・Cライン）平面図

〈参考文献〉

- 浦添市教育委員会編 1997 『歴史の道整備基本計画～浦添街道・普天間街道・番所道～』
- 浦添市教育委員会編 2002 『歴史の道整備活用事業業務完了報告書 中頭方西海道・普天間街道』
- 浦添市教育委員会編 2021 『史跡中頭方西海道及び普天満参詣道保存活用計画書』
- 沖縄県教育委員会編 1984 『沖縄県歴史の道調査報告書—真珠道・末吉宮参詣道—』
- 沖縄県教育委員会編 1985 『沖縄県歴史の道調査報告書—国頭・中頭方西海道（Ⅰ）弁ヶ嶽参詣道—』
- 沖縄県教育委員会編 1986 『沖縄県歴史の道調査報告書—国頭・中頭方西海道（Ⅱ）—』
- 沖縄県教育委員会編 1988 『沖縄県歴史の道調査報告書Ⅴ—中頭方東海道—』
- 沖縄県教育委員会編 2000 『喜友名泉石置道・喜友名山川原丘陵古墓群・伊佐前原古墓群—宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書（Ⅱ）—』（沖縄県文化財調査報告書第137集）
- 宜野湾市史編集委員会編 1994 『宜野湾市史』第1巻通史編
- 宜野湾市史編集委員会編 1985 『宜野湾市史』第5巻資料編4 民俗
- 宜野湾市教育委員会編 2001 『謝名地区文化財保存整備マスタープラン作成業務基本計画説明書』
- 宜野湾市教育委員会編 2007 『ぎのわんの文化財〔第7版〕』（宜野湾市文化財保護資料 第67集）
- 宜野湾市教育委員会編 2011 『文化財保存整備基本構想作成業務委託（喜友名・新城・野嵩・伊佐地区）報告書』
- 宜野湾市教育委員会編 2018 『西普天間住宅地区 重要文化財保存整備実施計画更新業務報告書』
- 宜野湾市教育委員会編 2019 『拠点返還地（西普天間住宅地区）に係る重要文化財指定・整備に関する調査検討業務報告書』
- 宜野湾市教育委員会編 2020 『西普天間住宅地区重要文化財（歴史の道〔喜友名地区））保存整備基本計画作成業務報告書』
- 宜野湾市教育委員会編 2021 『西普天間住宅地区重要文化財（歴史の道〔新城地区））保存整備基本計画作成業務報告書』
- 宜野湾市教育委員会編 2022 『西普天間住宅地区重要文化財（歴史の道〔全体〕他）保存整備基本計画作成業務報告書』
- 宜野湾市教育委員会編 2023 『西普天間住宅地区「歴史の道」保存整備基本設計業務説明書』
- 宜野湾市教育委員会編 2024 『西普天間住宅地区内の文化財活用調査計画業務報告書』
- 財団法人文化財建造物保存技術協会編 2001 『重要文化財 喜友名山泉保存修理事務報告書』
- 仲吉朝助 1928 「琉球の地割制度（第二回）」『史學雑誌』39 編6号

報告書抄録

ふりがな	きちないまいぞうぶんかさいちょうさほうこくしょ10							
書 籍	基地内埋蔵文化財調査報告書10							
副 書 名	令和元・3・4年度 基地内遺跡ほか発掘調査事業 一西普天間住宅地区返還跡地内ー 中頭方西海道(喜友名・新城の宿道)の試掘範囲確認調査							
巻 次	ー							
シ リ ー ズ 名	宜野湾市文化財調査報告書							
シ リ ー ズ 番 号	第66集							
編 著 者 名	末吉飛鳥、仲村毅							
発 行 機 関	宜野湾市教育委員会							
所 在 地	〒901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号 TEL098-893-4430							
発 行 年 月 日	2025(令和7)年3月14日							
所 収 遺 跡 名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				m ²	
基地内埋蔵文化財 (令和元年度)	沖縄県 宜野湾市 字新城 喜友名	472051	ー	26° 17′ 19″	127° 45′ 41″	2019.6.17 ～ 2020.1.16	試掘19箇所 140m ²	試掘・確認調査
基地内埋蔵文化財 (令和3年度)			ー	26° 17′ 24″	127° 45′ 50″	2021.3.19 ～ 2022.2.25	試掘29箇所 342m ²	
基地内埋蔵文化財 (令和4年度)			ー	26° 17′ 19″	127° 45′ 41″	2022.2.9 ～ 2022.7.13	試掘3箇所 22m ²	
所 収 遺 跡 名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
喜友名・新城の宿道	交通遺跡	近世～近代		礎数、土留め		沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、本土産磁器、金属製品ほか		
新城上殿遺跡	集落跡	グスク時代、 近世～近代		礎数				
喜友名山川原第七遺跡	集落跡、 耕作地	グスク時代、 近世～近代		礎数、溝状遺構		沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、本土産磁器ほか		
喜友名西原遺跡	散布地	グスク時代、 近世～近代		礎数、土留め		沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、本土産磁器ほか		
喜友名下原第二遺跡	集落跡、 耕作地	グスク時代、 近世～近代		ビット、礎数、 土留め		グスク土器、中国産磁器、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、アカムシー、瓦、滑石質石皿、カムイギヤほか		
喜友名下原第一遺跡	集落跡、 耕作地	先史時代、 グスク時代、 近世～近代		ビット、礎数、 土留め		グスク土器、青磁、沖縄産施釉陶器、沖縄産無釉陶器、アカムシー、金属製品ほか		
要 約	西普天間住宅地区返還跡地(旧キャンプ館電覧)に所在する埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施した。今回調査は、当該返還跡地内をルートとされる中頭方西海道(遺跡名としては喜友名・新城の宿道)とそこから分岐する脇道について、遺構の有無や正確なルート、道としての構造などの詳細情報を得ることを目的とした。調査手法としては、古地図や地形図、地籍図、航空写真などから想定ルートを割り出して現地へと下り込み、想定ルートを横断するように令和2～4年にかけて合計51箇所のトレンチを設定、調査を実施した。 調査の結果、道については路面を構成する礎数遺構や土手を形成する土留めを確認することができた。また、道を形成する際には段状地形の縁をルートとする傾向がみられ、比較的地形の起伏が少なく、等高線に沿ったラインにルートを設定していることが伺えた。さらに、喜友山下原第一、第二遺跡内では、グスク時代の遺構や包合層も確認されており、グスク時代は集落として、近世以降は道や耕作地として使用されるという時代によって役割が変遷していく様子が明らかとなった。							

文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権(発行者)の承諾なく、この報告書を複製して利用できます。なお、利用にあたっては、出典を明記してください。

宜野湾市文化財調査報告書 第66集

基地内埋蔵文化財調査報告書10

令和元・3・4年度 基地内遺跡ほか発掘調査事業
—西普天間住宅地区返還地内—

中頭方西海道(喜友名・新城の宿道)の試掘範囲確認調査

発行年	2025(令和7)年3月14日
編集 発行	沖縄県宜野湾市教育委員会
住所	〒901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号 TEL 098-893-4430
印刷	有限会社 大創 〒901-2205 沖縄県宜野湾市赤道1-6-10 TEL 098-892-8287

